SONY®

3-072-650-**01** (2)

デジタルビデオカメラレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Digital 8
Digital Handycam

DCR-TRV240K

© 2002 Sony Corporation

こんなことができます

動画や静止画を撮影して、再生できます。

テープに

動画を撮影する　16ページ

静止画を撮影する　30ページ

撮影した映像を再生する　25ページ

画像をパソコンに取り込めます。

テープに記録した映像を別売りのUSBケーブルを使ってパソコンで見る　78ページ

カメラに映っている画像を別売りのUSBケーブルを使ってパソコンに取り込む　87ページ

本機を使ってアナログ信号をデジタル変換してパソコンに取り込む　90ページ

必ずお読みください

お使いになる前に

本機はDigital8（デジタルエイト）方式のデジタルビデオカメラレコーダーです。
マークのついたHi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）テープを使用します。録画方式はDigital8（デジタルエイト）方式になります。また、本機は、他機で撮影したHi8（ハイエイト）方式、またはスタンダード8ミリ方式の画像を再生することができます。よりよいつなぎ撮りのために、これらの方式とDigital8（デジタルエイト）方式で記録した映像を同一テープに混在させないことをおすすめします。
また、本取扱説明書に記載された再生機能には、Digital8（デジタルエイト）方式で撮影された映像にのみ有効なものがありますので、ご了承ください。

液晶画面、ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんのでご安心してお使いください。
- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

● さらにこんなことができます。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

電波障害自主規制について

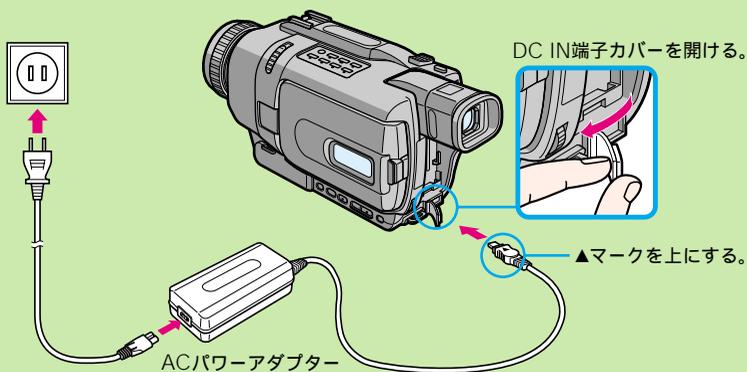
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

とにかく撮って見る

ここでは本機の使い方を簡単に説明します。
詳しくは（　）内のページをご覧ください。

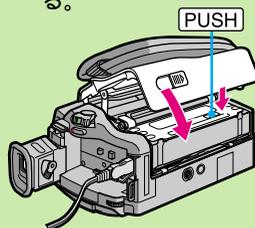
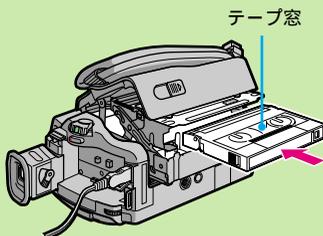
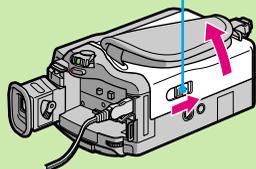
1 電源をつなぐ（12ページ）

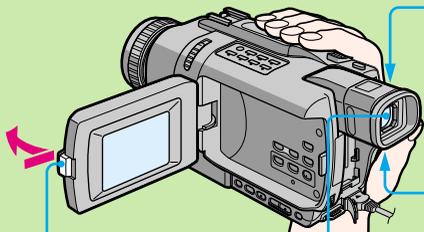
屋外ではバッテリーを使います →8ページ

2 カセットを入れる（15ページ）

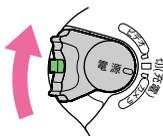
❶ 開く／⯐カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。

❷ テープ窓を上にして、カセットの背の中央部を押して入れる。

❸ PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。
カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。

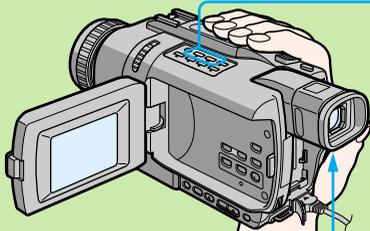
3 撮影する（16ページ）

❶ **レンズキャップをはずす。**

❷ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

❸ **OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。**
液晶画面に画像が映る。

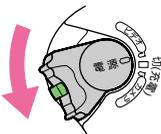
ファインダーで画像を見るときは
液晶画面を閉じてファインダーをのばします。ご自分の視力に合わせて視度を調整してください。（19ページ）
ファインダーに映る画像は白黒です。

❹ **スタート／ストップボタンを押す。**
撮影が始まる。

もう1度押すと止まる。

お買い上げ時には日付・時刻の設定はされていません。
撮影する前に日付・時刻を合わせてください。（13ページ）

4 液晶画面で見る（25ページ）

❶ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

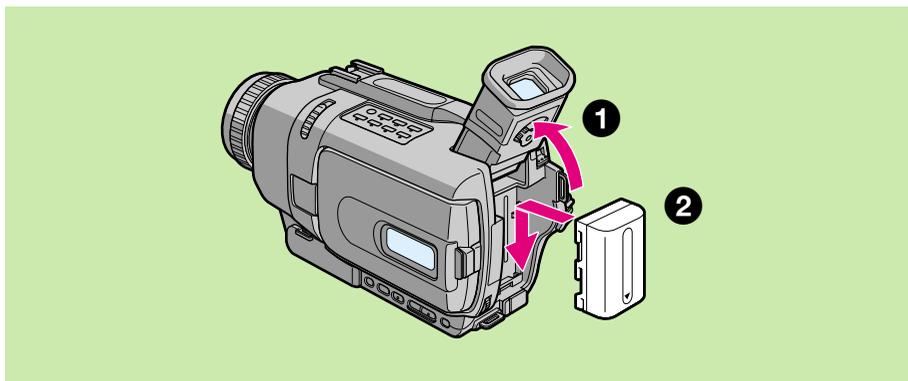
❷ **◀◀巻戻しを押してテープを巻き戻す。**

巻戻し ◀◀

❸ **▶再生を押すとテープが再生される。**

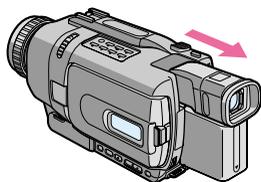
ご注意

ファインダーや液晶画面またはバッテリーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

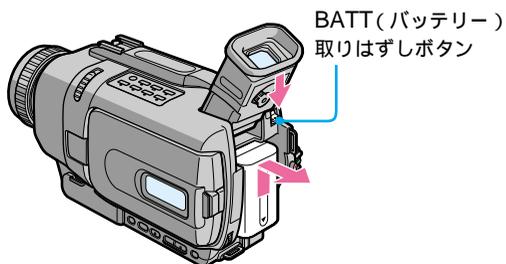
準備1 電源を準備する

バッテリーを取り付ける

容量の大きいバッテリーを使用するときは
容量の大きいバッテリー（NP-FM70/QM70/QM71/FM90/FM91/QM91）をご使用のときはファインダーを伸ばしてご使用ください。

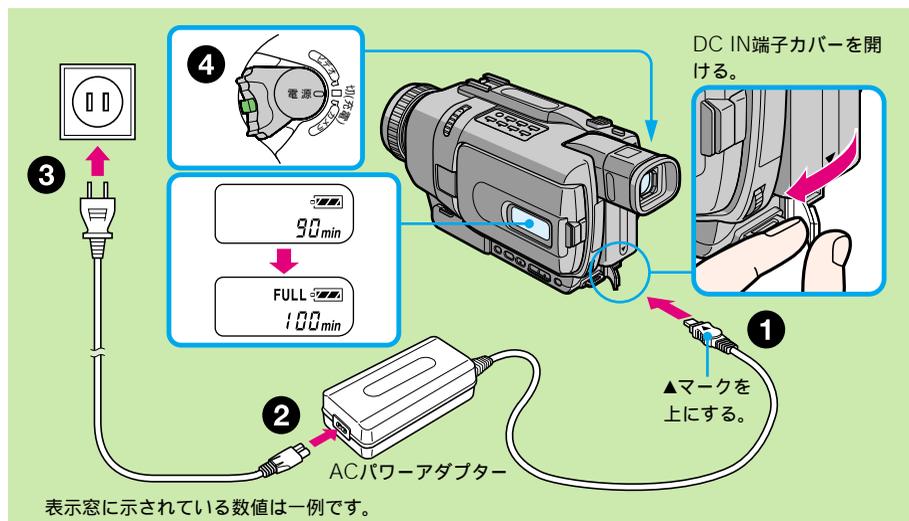
❶ ファインダーを上げる。

❷ バッテリーを押しながら、カチッとロックするまで下へずらす。

本体から取りはずす

1 **ファインダーを上げる。**

2 **バッテリー取りはずしボタンを押しながらバッテリーを上へずらし、取りはずす。**

バッテリーを充電する

バッテリーは充電してからお使いください。本機でバッテリーの充電ができます。
本機の電源には、**"インフォリチウム"バッテリー（Mシリーズ）**を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。
"インフォリチウム"バッテリーについて、詳しくは109ページをご覧ください。

表示窓に示されている数値は一例です。

ご注意

ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

満充電になると
表示窓のバックライトが消灯します。

表示窓に表示されるバッテリー残量時間は
ファインダーを使用したときの連続撮影時間の目安です。

ACパワーアダプターは
コンセントの近くでお使いください。本機をご使用中に不具合が生じた時はすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

❶ ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを上にしてつなぐ。

❷ 電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。

❸ 電源コードをコンセントにつなぐ。

❹ 電源スイッチを「切（充電）」にする。

充電が始まると、表示窓にバッテリー残量時間が表示される。
充電が終わると、バッテリー残量表示が「▬」になる**（実用充電）**。さらに「FULL」が表示されるまで充電すると若干長く使える**（満充電）**。

バッテリーの充電が終わったら
ACパワーアダプターをDC IN端子から抜く。

準備

ご注意

25°Cで撮影、再生したときの時間の目安です。低温では使用時間が短くなります。

バッテリー残量を計算するまでは
表示窓には「– – – – min」が表示されます。

充電中の表示窓の表示
以下の場合、正しく表示されない、または点滅することがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられていない。
- バッテリーが故障している。

海外でも充電できます
詳しくは111ページをご覧ください。

バッテリー残量の表示時間が充分なのに電源がすぐに切れるときは
満充電すると正しく表示されます。

バッテリーは
室温10°C～30°Cで充電することをおすすめします。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-FM30（付属）	145（85）
NP-FM50	150（90）
NP-FM70/QM70	240（180）
NP-QM71	260（200）
NP-FM90	330（270）
NP-FM91/QM91	360（300）

使い切ったバッテリーを25°Cで充電したときの時間（約　分）。

まわりの温度によりバッテリーの温度が極端に高いまたは低いと、充電時間が長くなることがあります。

注*「実用充電」での撮影時間／再生時間は満充電時のおよそ90%です。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時	実撮影時*	連続撮影時	実撮影時*
NP-FM30（付属）	100	55	80	45
NP-FM50	165	95	130	75
NP-FM70/QM70	345	200	270	155
NP-QM71	400	230	315	180
NP-FM90	520	300	410	235
NP-FM91/QM91	605	350	475	275

満充電してからの時間（約　分）。

* 録画、スタンバイ、電源入／切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。

再生時間
右の表は、Digital8再生時の時間の目安です。Hi8/スタンダード8ミリ再生時には、再生できる時間が20%程度短くなります。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
“ インフォリチウム ”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持ったリチウムイオンバッテリーです。本機は“ インフォリチウム ”バッテリー（Mシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“ インフォリチウム ”バッテリー（Mシリーズ）には InfoLITHIUM M SERIES マークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FM30（付属）	80	110
NP-FM50	130	180
NP-FM70/QM70	270	370
NP-QM71	315	430
NP-FM90	410	560
NP-FM91/QM91	475	645

満充電してからの時間（約　分）。

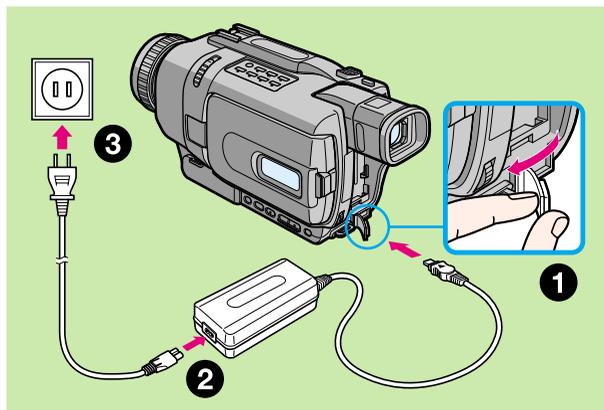
コンセントにつないで使う

ご注意

- バッテリーをつけたままでもお使いいただけます。
- 電源供給はDC IN端子が優先されます。バッテリーで使用するとき、コンセントから電源コードを抜いても、DC IN端子にコードが差し込まれているとバッテリーから電源は供給されません。

自動車の電源では

別売りのカーバッテリーアダプターでお使いになれます。詳しくはカーバッテリーアダプターの取扱説明書をご覧ください。

テープを再生するときなど長時間使用するときは、家庭用のコンセントを使うとバッテリー切れの心配なく使えます。

❶ **ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。**

DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを上にしてつなぐ。

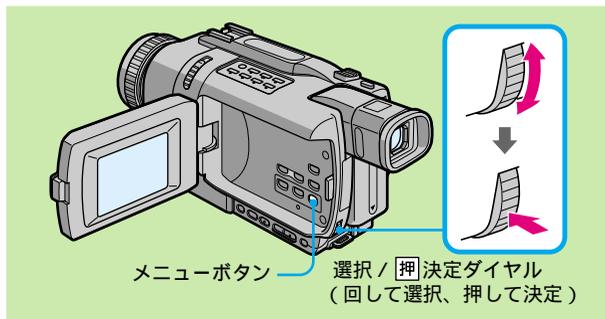
❷ **電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。**

❸ **電源コードをコンセントにつなぐ。**

準備2 日付・時刻を合わせる

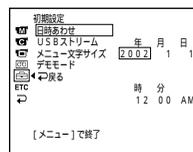
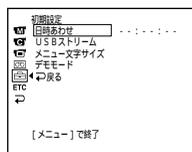
本機をはじめて使うときは日付・時刻を設定してください。設定しないと電源を入れ、撮影状態にするたびにお知らせメッセージが出ます。

半年近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して、日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（113ページ）

日時を設定しないと
テープのデータコードには
「–––– –– ––」と
「––:––:––」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

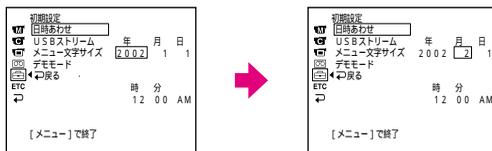
1 電源スイッチを「カメラ」にして、メニューボタンを押す。

2 選択／押 決定ダイヤルでの項目の「日時あわせ」を選び、押して決定する。

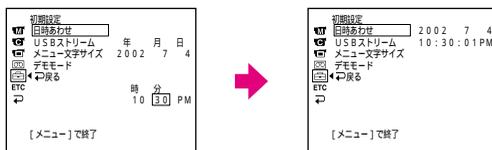
準備

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❸「年」を合わせる。

選択／押決定ダイヤルを回して「年」を合わせ、押して決定する。

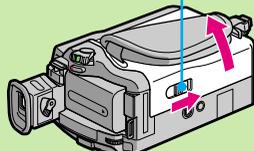
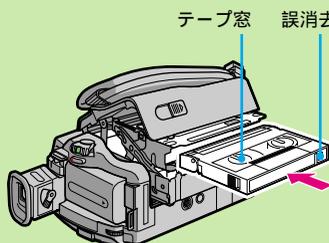
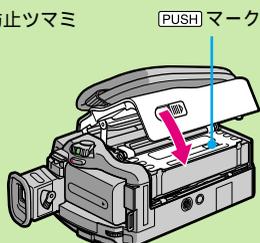
年表示は次のように変わる。

❹ 手順3と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

❺「分」と「秒」を合わせる。

選択／押決定ダイヤルを回して「分」を合わせて時報と同時に押して決定する。時計が動き始める。

❻ メニューボタンを押す。

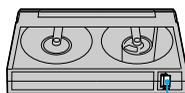
メニュー画面が消える。

準備3 カセットを入れる

Hi8/8マークのついたHi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）テープをおすすめします。

ご注意

- カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。
- 本機での撮影方式はデジタルエイト方式です。
- 録画時間はSPモードでHi8テープに表示してある時間の半分、LPモードで3/4になります。
- スタンダード8ミリテープを使用して本機で撮影した場合、本機以外（他のDCR-TRV240Kを含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。
- PUSH マーク以外を押しているとカセット入れが閉まらないことがあります。

間違って消さないために

カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらし「赤」にします。

1 電源を準備する。（8ページ）

2 開く／カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。

カセット入れが自動的に出て開く。

3 カセットの背の中央部を押して、カセットを入れる。

テープ窓を上にして、まっすぐ奥まで押し込む。

4 PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。

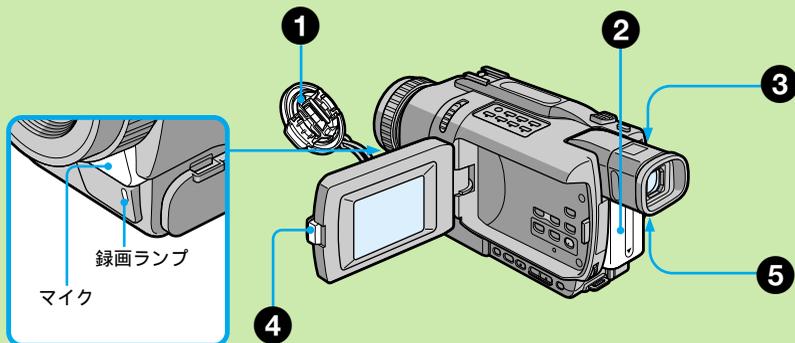
カセット入れが自動的に引き込まれる。

5 カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

撮影する

ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

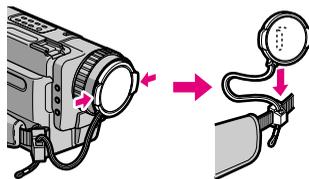
- グリップベルトをしっかりしめてください。
- マイクに手が触れないようにしてください。

長時間録画したいときには
メニューの「録画モード」を「LP」にします（91ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した映像はきれいにつながります。
また、以下の点にご注意ください。

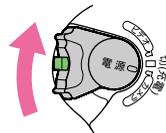
- 同じテープにSPモードで撮影した映像とLPモードで撮影した映像を混在させない。
- バッテリーの交換は電源スイッチを「切（充電）」にしてから行なう。

撮影スタンバイが3分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影を始めるには電源スイッチを１度「切（充電）」にしてから「カメラ」に戻して撮影スタンバイにするか、電源スイッチはそのままで、もう一度スタート／ストップボタンを押すと撮影が始まります。 ただしカセットが入っていなければ、撮影スタンバイが3分以上続いても電源は切れません。

❶ レンズキャップを取りはずし、グリップベルトに取り付ける。

❷ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

「準備1～3」（8～15ページ）をご覧ください。

❸ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」にする。

撮影スタンバイになる。

❹ OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。

ファインダーの画像は消える。

ご注意

撮影日時／カメラデータは画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時にリモコンのデータコードボタンを押すと見ることができます。

次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変える。
- LPモードでつなぎ撮りをする。

❺ **スタート／ストップボタンを押す。**

撮影が始まり、「●録画」の表示が出る。録画ランプが点灯する。
もう一度押すと止まる。

録画中
撮影が終わったら

1 **電源スイッチを「切（充電）」にする。**
2 **液晶画面を閉じる。**
3 **カセットを取り出す。**
4 **バッテリーをとりはずす。**

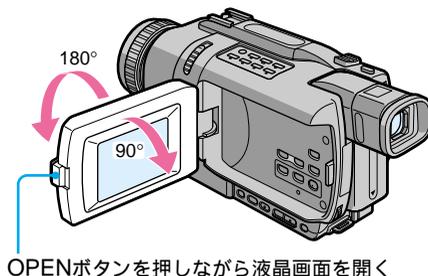
ご注意

液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。

液晶画面について
- 屋外では日差しの加減で見えにくい場合があります。ファインダーでの撮影をおすすめします。
- 角度の調節は必ず90°まで開いてから行ってください。

液晶画面を使って撮影するときのバッテリーの使用時間は
ファインダーを使った撮影時間より若干短くなります。

液晶画面の明るさは
メニューの「パネルの明るさ」「パネルバックライト」（91ページ）で調節することができます。これらを調節しても記録される画像に変化はありません。

液晶画面を調整する

OPENボタンを押しながら液晶画面を開く

液晶画面は90°まで開きます。また、レンズの方向に180°まで、ファインダーの方向に90°まで回転し、角度を調節できます。
液晶画面を閉じるときは、液晶画面を垂直にしてから本体に向かって閉じます。

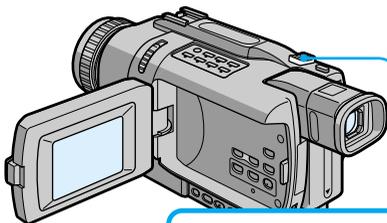
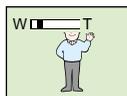
撮る

デジタルズームについて
- デジタルズームを使うと、ズーム倍率は50倍または300倍までになります。
- 画像をデジタル処理するため画質が低下します。

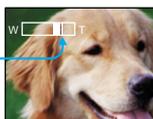
近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

ズームする

ズームレバーを動かす。

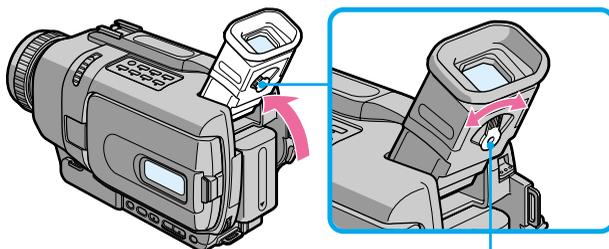
軽く動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームする。
使いすぎると見づらい作品になります。

25倍を超えるズームはデジタルズームになります。

デジタルズームを使うには、メニューで「デジタルズーム」の倍率を選択してください。（91ページ）

このラインよりT側がデジタルズームになります。メニューで「デジタルズーム」の倍率を選ぶと表示されます。

ファインダーバックライトの明るさは
メニューの「VFバックライト」で変えることができます。（91ページ）
調節しても記録される画像に変化はありません。

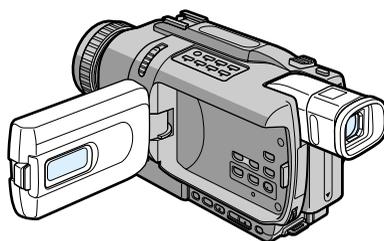
ファインダーで撮影する－視度調整

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。自分の視力に合わせて、ファインダー内の文字がはっきり見えるように調整します。

ファインダーを上げて、視度調節つまみを動かす。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
リモコンのゼロセットメモリーボタンは働きません。

対面撮影する

ファインダーと液晶画面で画像を確認できます。
被写体が自分で画像を確認したいときなどに使用してください。

電源スイッチを「カメラ」にしたとき

液晶画面を180°**回転させる。**

ファインダーと液晶画面に☺が出ます。

撮影スタンバイ中には❚❚●、撮影中には●が表示されます。

その他の表示では左右が反転するものもあります。また、表示が出ないものもあります。

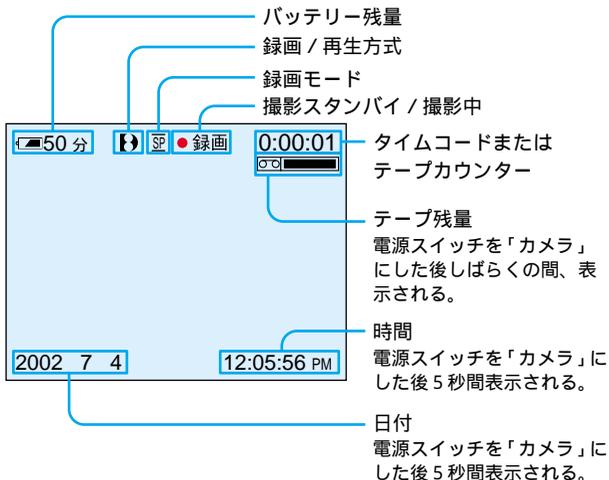
撮る

撮影中のバッテリー残量表示について
連続撮影時間の目安を表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

タイムコードについて（Digital8方式で記録されたテープのみ）
テープ走行時間が「0:00:00」（時:分:秒）と出ます。再生中には「0:00:00:00」（時:分:秒:フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。
Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生すると、テープカウンターが表示されます。本機でカウンターリセットすることはできません。

撮影日時／カメラデータは
画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時にリモコンのデータコードボタンを押すと見ることができます。

撮影中の表示

これらの表示はテープには記録されません。

逆光補正をする

逆光補正中に明るさボタンを押すと
逆光補正は解除されます。

被写体のうしろに光源があり、被写体が暗く映る時などに明るさの補正をします。

電源スイッチを「カメラ」にしたとき
逆光補正ボタンを押す。

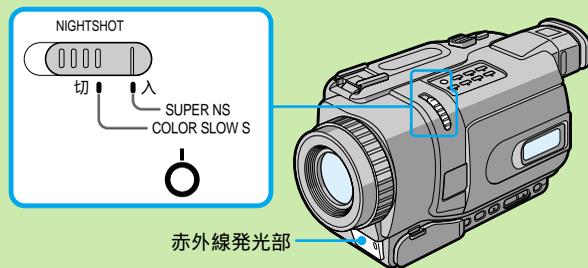
逆光補正表示☒が出ます。逆光補正ボタンをもう一度押すと解除されます。

暗闇で撮るーNIGHTSHOT（ナイトショット）/ SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）/ COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）

ご注意

- 昼間の屋外の明るいところではお使いにならないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。
- NIGHTSHOTで撮影中、オートフォーカスが合いにくいときは、マニュアルフォーカスをご使用ください。

NIGHTSHOT中は以下の操作ができません
– 明るさ調節
– プログラムAE

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所で撮影することができます。

NIGHTSHOT（ナイトショット）を使う

電源スイッチを「カメラ」にしたとき

NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

NIGHTSHOT表示 ◙ と“NIGHTSHOT”が点滅します。
NIGHTSHOTスイッチを「切」にすると解除されます。

SUPER NIGHTSHOT、COLOR SLOW SHUTTER中は以下の操作ができません
– フェーダー
– デジタルエフェクト
– 明るさ調節
– プログラムAE

SUPER NIGHTSHOT、COLOR SLOW SHUTTER時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）を使う

SUPER NSボタンを使うと、NIGHTSHOTの最大16倍の感度で被写体を明るく撮影することができます。

1 電源スイッチを「カメラ」にして **NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。**

◙表示と“ NIGHTSHOT ”が点滅します。

2 **SUPER NSボタンを押す。**

S◙表示と“ SUPER NIGHTSHOT ”が点滅します。

SUPER NSボタンをもう一度押すと解除されます。

NIGHTSHOTライトは
赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲は約3mです。

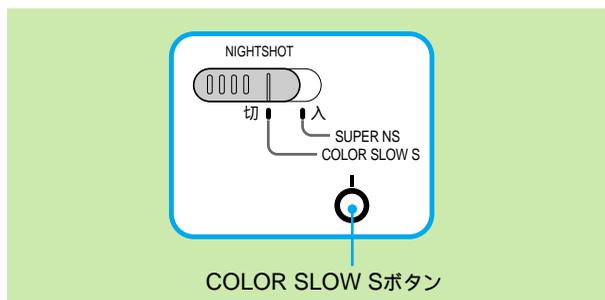
NIGHTSHOTライトを使う

NIGHTSHOTライトを使うと画像がよりはっきりします。メニューで「N.S.ライト」を「入」にします。

（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

暗闇など全く光のない場所（0ルクス以下）では
COLOR SLOW SHUTTERが正しく働かない場合があります。

COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）を使う

薄暗い場所で、被写体をカラーで撮影することができます。

COLOR SLOW Sボタン

❶ 電源スイッチを「カメラ」にして **NIGHTSHOTスイッチを「切」にする。**

❷ **COLOR SLOW Sボタンを押す。**

COLOR SLOW SHUTTER表示 と“ COLOR SLOW SHUTTER ”が点滅します。

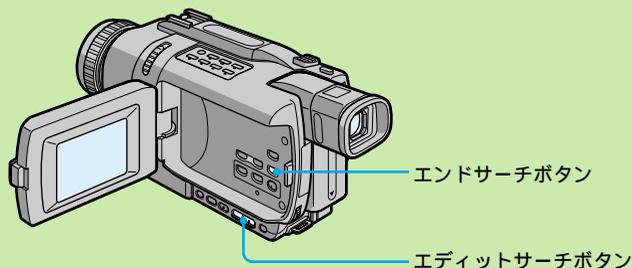
COLOR SLOW Sボタンをもう一度押すと解除されます。

撮る

次の撮影開始点を探す

－エンドサーチ／エディットサーチ／レックレビュー－

撮った画面が気になるときや、最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときに使います。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、エンドサーチ／エディットサーチ／レックレビューはできません。
- エンドサーチをしてからつなぎ撮りをすると、まれに場面がきれいにつながらないことがあります。
- 撮影後、カセットを取り出すとエンドサーチは働きません。

テープの途中に無記録部分があると
エンドサーチが正しく働かない場合があります。

エンドサーチ

最後に撮影した終わりの部分に戻ります。

［撮影スタンバイ中］に

エンドサーチ

エンドサーチボタンを押す。

最後に撮影した終わりの部分の約5秒間が再生され、撮影スタンバイに戻る。
スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

エディットサーチ

次の撮影開始点を探します。

［撮影スタンバイ中］に

エディットサーチ＋／－ボタンを押し続ける。 画像が再生される。

＋　：場面を進める

－　：場面を戻す

指を離したところが、次の撮影開始点になる。音は出ない。

レックレビュー

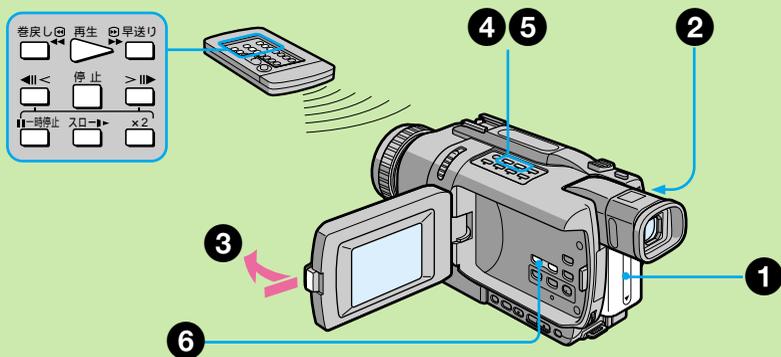
最後の場面を確認します。

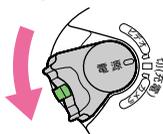
［撮影スタンバイ中］に

エディットサーチボタンの－側をポンと1回押す。

テープを停止させた部分が数秒間再生され、撮影スタンバイに戻る。スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

再生する

撮影したテープなどを液晶画面で見ます。液晶画面を閉じるとファインダーでも見られます。
リモコンでも操作できます。

❶ **バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。**

❷ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ OPEN**ボタンを押しながら、液晶画面を開ける。**

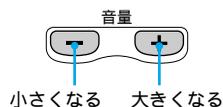
❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**
巻き戻しが始まる。

❺ **▶再生ボタンを押す。**
画像が映る。

❻ **音量ボタンを押して、音量を調節する。**
液晶画面を閉じているときは、音が出ません。

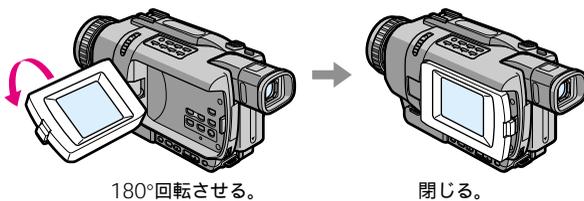
音量
小さくなる　大きくなる

見る

次のページへつづく

再生を止める

■停止ボタンを押す。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

180°回転させる。　閉じる。

テープカウンター、日付データ／カメラデータなどの表示を出す－画面表示機能

ご注意

Digital8方式以外で記録したテープではデータコードは表示されません。

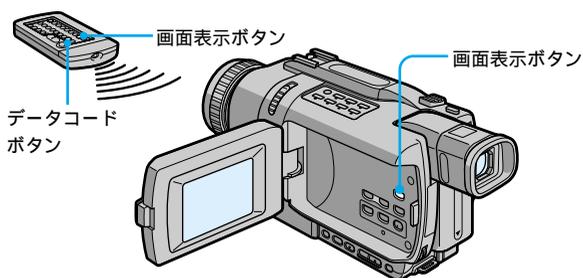
カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

次のときは、「-- --- --」を表示します。
- 無記録部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を合わせないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつないだときはテレビ画面で確認することができます。

再生中のバッテリー残量表示について
連続再生時間の目安を表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

本体またはリモコンの画面表示ボタンを押す。

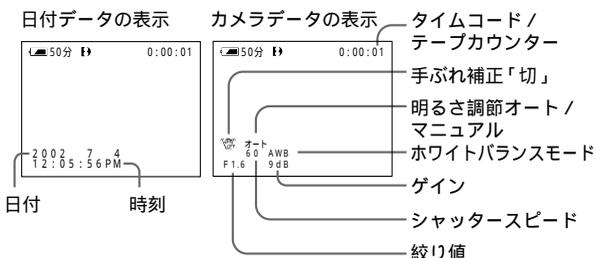
液晶画面に表示が出る。消すときはもう1度押す。

日付データ／カメラデータ表示について（リモコンでのみ操作できます。）

本機は撮影時の日付・時刻およびカメラデータを、自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。

1　電源スイッチを「ビデオ」にして、テープを再生する。

2　リモコンのデータコードボタンを押す。

押すたびに次のように表示が変わります。

「日付データの表示」→「カメラデータの表示」→表示なし

カメラデータを表示させないようにする

メニューの「データーコード」で「日付データ」を選ぶ。
（91ページ）

リモコンのデータコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。

「日付データの表示」←→表示なし

見る

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。

一時停止する（静止画を見る）

［再生中］に❚❚一時停止ボタンを押す。
もう一度押すか、►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする

［停止中］に►►早送りボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す

［停止中］に◄◄巻戻しボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する

［再生中］にリモコンの＜ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り／巻き戻しする（ピクチャーサーチ）

［再生中］に►►早送り／◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り／巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）

［早送り中］に►►早送り、または［巻き戻し中］に◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

スロー画を見る

［再生中］にリモコンの❙►スローボタンを押す。
逆方向にスロー再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してから❙►スローボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で見る（倍速再生）

［再生中］にリモコンの×2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してから×2ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

コマ送りで見る

［再生一時停止中］にリモコンの❙❙►ボタンを押す。
逆方向にコマ送りするときは、◄❙❙ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）

［停止中］にエンドサーチボタンを押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

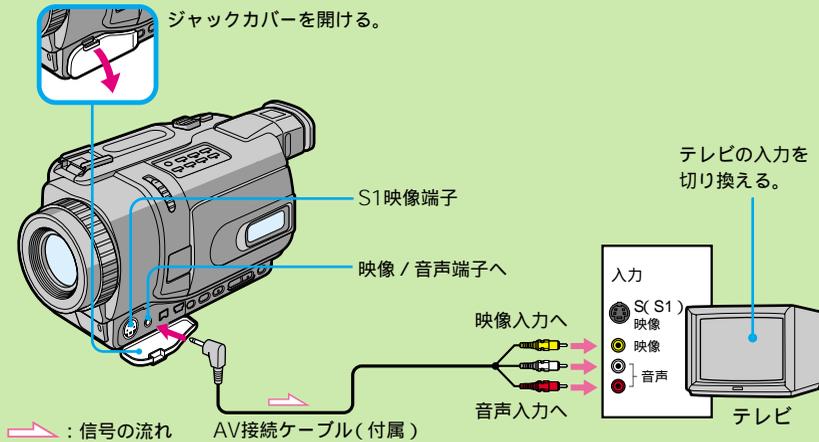
変速再生中は
- Digital8方式以外で記録したテープで変速再生するとノイズが出ます。
- 音声は出ません。
- Digital8方式再生時に前の映像がモザイク状に残ることがあります。

一時停止（静止画）について
- 3分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、►再生ボタンを押します。
- 前の画像が残ることがあります。

Digital8方式のスロー再生について
本機にはスロー画像をなめらかに再生する機能があります。ただしi.DV入力／出力端子から出力される画像にはこの機能は働きません。

逆方向再生について
画面の上下や中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は付属のACパワーアダプターを使って、コンセントからとることをおすすめします（12ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと
再生画像がより忠実に再現できます。テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出すには
メニューで「画面表示」を「ビデオ出力／パネル」にし（91ページ）、画面表示ボタンを押します。消すときはもう１度押します。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。
モノラル音声でお聞きになりたいときは市販の接続ケーブルをお使いください。

テープに静止画を撮る－テープフォト撮影

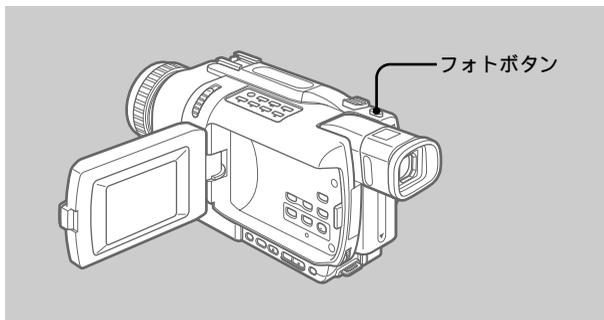
テープに静止画を記録できます。SPモードで60分記録できるテープなら、SPモードで約510枚、LPモードで約765枚撮れます。

ご注意

- テープフォト撮影中はモードや設定を変更することはできません。
- 以下の設定中や操作中は、テープフォト撮影ができません。
  － フェーダー
  － デジタルエフェクト
- 静止画を記録しているときは、本機を振らないでください。画像が乱れることがあります。

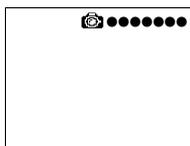
動きのある画像をテープフォト撮影すると
他の機器で再生したときに画像がぶれることがありますが、故障ではありません。

リモコンのフォトボタンで撮影すると
押したときに映っている画像が記録されます。

カメラ録画中にテープフォト撮影するときは
フォトボタンを軽く押して画像を確認することができません。フォトボタンを深く押してください。約7秒間静止画を記録したあと、撮影スタンバイに戻ります。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき録画はされません。

画像を選びなおすときはフォトボタンを離してからもう1度軽く押す。

❷ **フォトボタンを深く押す。**

録画中は1秒ごとに赤い丸が消えていく。

ボタンを深く押したときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。
記録中に映る画像は静止画となります。

横長の画面にする－ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。ID-1/ID-2対応TVに接続した場合は自動的にTVのワイドモードが切り替わります。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたいとき

ワイドTVモードで撮影

ファインダー／液晶画面

通常のテレビで再生

ワイドテレビで再生

画像が縦長になります。

テレビをフルモードに切り換える

ワイドTVモード中は
以下の操作はできません。
－オールドムービー
－バウンド

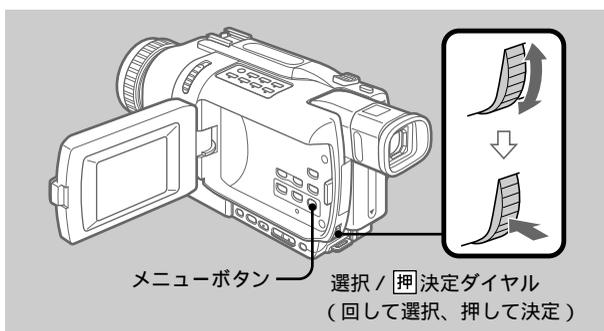
録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。
ワイドTVモードを解除するときは、必ず撮影スタンバイにしてから、メニューで「ワイドTV」を「切」にしてください。

テレビの接続について
下記の接続のとき、ワイドTVモードで記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。
- ビデオIDシステム（ID-1/ID-2）方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS（S1）映像入力端子に接続したとき。

ID-1方式とは
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムです。

ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

S1映像信号とは
通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されています。

「ワイドTV」を「入」にすると
手ぶれ補正は働きません。手ぶれ補正が働いているときにメニューで「ワイドTV」を「入」にすると「(手ぶれアイコン)」が点滅し、手ぶれ補正は働かなくなります。

1 ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

2 **選択／押決定ダイヤルで(カメラアイコン)の項目の「ワイドTV」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**

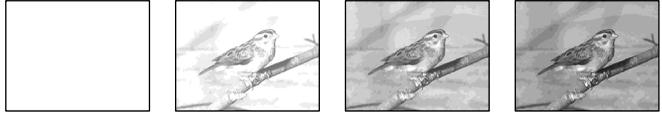
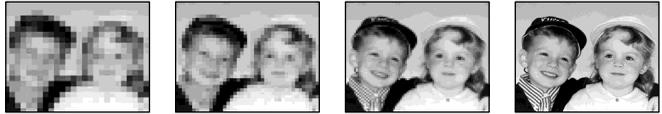
ワイドTVモードを解除する

メニューで「ワイドTV」を「切」にする。

効果的な場面転換をする–フェーダー

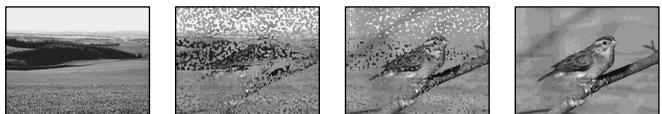
余韻を残して場面を変えたり、徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

フェードイン

フェーダー

モザイクフェーダー

バウンド 1) 2)

オーバーラップ 2)

ワイプ 2)

ドットフェーダー 2)

フェードアウト

モノトーンフェーダー　フェードインは白黒からカラーに、
フェードアウトはカラーから白黒になります。

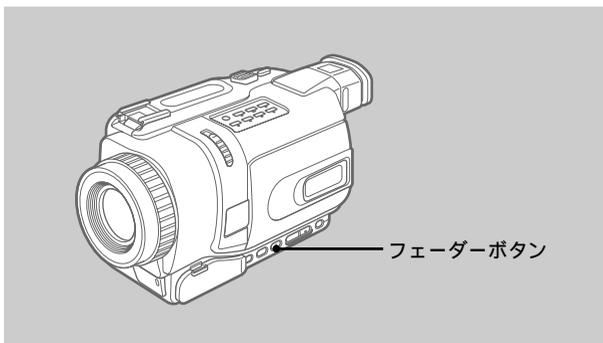
1) メニューでデジタルズームが「切」になっているときのみ使えます。
2) フェードインのみ

ご注意

- Digital8 方式以外で記録したテープでは、オーバーラップ、ワイプ、ドットフェーダーはできません。
- フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
  – デジタルエフェクト
  – COLOR SLOW SHUTTER
  – SUPER NIGHTSHOT
  – テープフォト撮影
  – インターバル録画
  – コマ撮り

「オーバーラップ」、「ワイプ」または「ドットフェーダー」を選ぶと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中は表示が速い点滅になり、再生画が出ます。
このときテープの状態によっては、きれいな画像が取り込めないことがあります。

バウンド中には以下の操作ができません
- フォーカス
- ズーム
- ピクチャーエフェクト

以下の操作中にはバウンドが表示されません
- メニューで「デジタルズーム」の「50×」または「300×」を選択しているとき
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクト
- プログラムAE

❶ • フェードインは［撮影スタンバイ中］に
• フェードアウトは［撮影中］に
フェーダーボタンを押して希望のモードを選ぶ。

押すたびに変わります。
フェーダー→モザイクフェーダー→バウンド→モノトーンフェーダー→オーバーラップ→ワイプ→ドットフェーダー→（表示なし）

表示は前回使ったモードから表示されます。

❷ **スタート／ストップボタンを押す。**
フェーダーモード表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

スタート／ストップボタンを押す前に、フェーダーボタンを繰り返し押し、表示を消す。

画像に特殊効果を加える－ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

スリム
→縦に引き伸ばしたように

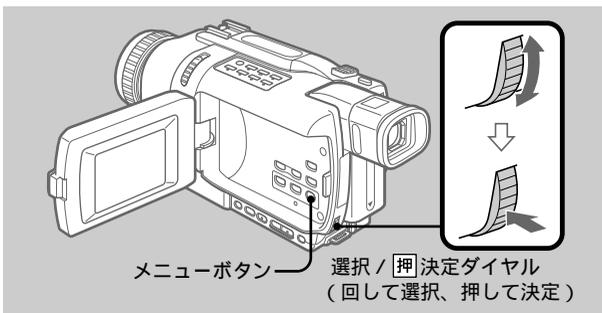
ストレッチ
→横に引き伸ばしたように

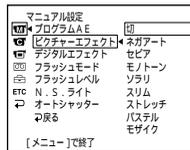
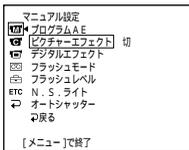
パステル
→淡い色のパステル画のように

モザイク
→タイルを組み合わせたように

セピア→古い写真のような色合いに　**モノトーン**→白黒に

ピクチャーエフェクト中は
オールドムービーは選べません。

電源スイッチを「切（充電）」にすると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

1 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

2 **選択／押 決定ダイヤルで の項目の「ピクチャーエフェクト」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

特殊な演出を加えて撮る–デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像にさまざまな演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードを遅くする。暗いところで撮影しやすい。

オールドムービー
画面は横長、画像はセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

（スチル）

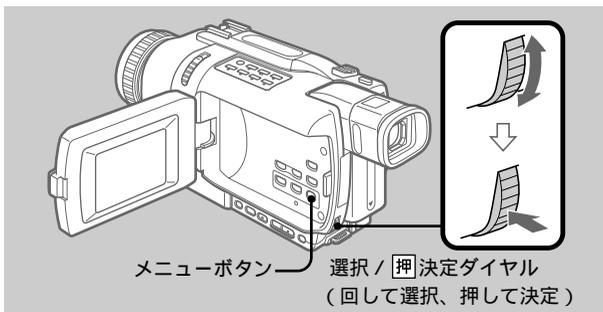
静止画　　　　　　動画

（ルミキー）

静止画　　　　　　動画

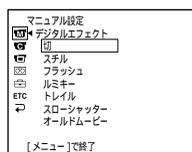
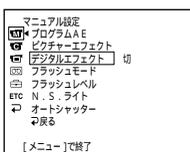
ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  - フェーダー
  - テープフォト撮影
  - SUPER NIGHTSHOT
  - COLOR SLOW SHUTTER
- スローシャッターを選ぶとプログラムAEは使えません。
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  - ワイドTVモード
  - ピクチャーエフェクト
  - プログラムAE

電源スイッチを「切（充電）」にすると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

2 **選択／押 決定ダイヤルでの項目の「デジタルエフェクト」を選び、押して決定する。**

使いこなすー撮影ー

次のページへつづく

スローシャッターでは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

スローシャッターのシャッタースピードは

表示	シャッタースピード
スローシャッター1	1/30
スローシャッター2	1/15
スローシャッター3	1/8
スローシャッター4	1/4

❸ 選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選び、押して決定する。

❹ 選択／押 決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下の通り。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取り込む部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
スローシャッター	シャッタースピード。 数字を大きくするほど遅くなる。
オールドムービー	調節は必要ない。

バー表示：大きくするほど効果が大きくなる。
次のデジタルエフェクトで表示される。
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイル。

デジタルエフェクトを解除する

メニューの「デジタルエフェクト」で「切」を選ぶ。

撮影状況に合わせて撮る－プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

スポットライト
結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

ソフトポートレート
人物、花などを撮影するときに背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。

スポーツレッスン
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

ビーチ&スキー
真夏の砂浜や、冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

サンセット&ムーン
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

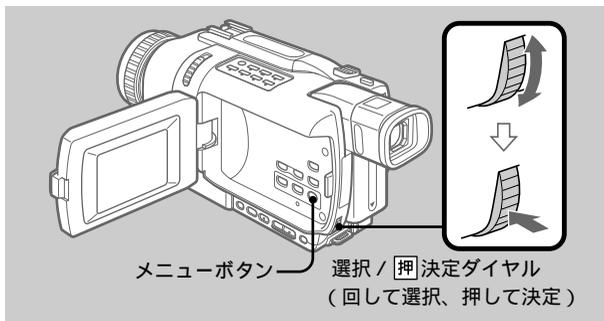
風景
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせ、風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

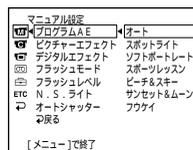
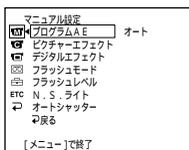
撮影状況に合わせて撮る－プログラムAE（つづき）

ご注意

- 次のモードでは近くのものにピントが合わないようにフォーカスを制御します。
  －スポットライト
  －スポーツレッスン
  －ビーチ＆スキー
- 次のモードでは遠景のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  －サンセット＆ムーン
  －風景
- プログラムAE中は以下の操作ができません。
  －COLOR SLOW SHUTTER
  －スローシャッター
  －オールドムービー
  －バウンド
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしているとき、プログラムAEは使えません。（表示が点滅します。）
- COLOR SLOW SHUTTER中はプログラムAEは使えません。

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると

次のモードでは画面が明るくなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化することがあります。このような場合にはプログラムAEを解除してください。
– ソフトポートレート
– スポーツレッスン

❶ 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❷ **選択／押 決定ダイヤルで M の項目の「プログラムAE」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

プログラムAEを解除する

メニューの「プログラムAE」で「オート」を選ぶ。

手動で画像の明るさを調節する

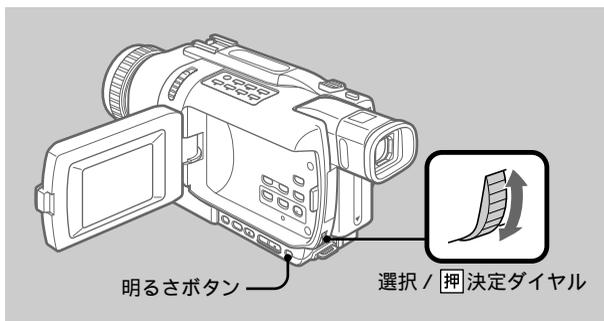
画像をお好みの明るさに手動調節し、固定することができます。通常は、自動的に明るさの調整が行われています。

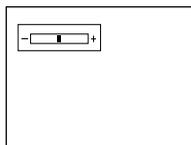
- 逆光補正を細かく行いたいとき
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
- 夜景を撮りたいとき

ご注意

明るさ調節しているときは、以下の操作ができません。
－逆光補正
－COLOR SLOW SHUTTER

以下のとき、明るさ調節は自動に戻ります

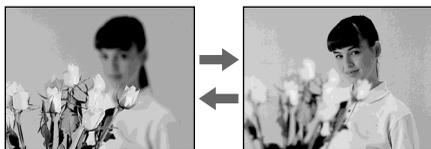
- プログラムAEのモードを変える。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
明るさボタンを押す。

明るさ表示が出る。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回し、明るさを調節する。**

自動調節に戻す

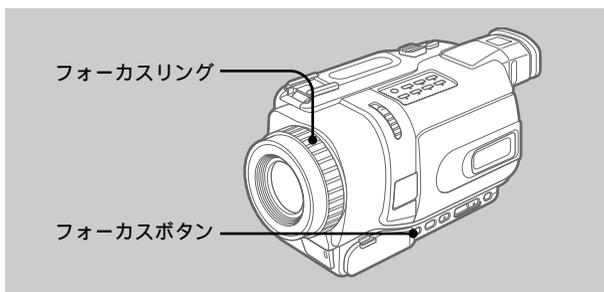
明るさボタンを押し、表示を消す。

手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。通常は自動的にピントの調節が行われています。

- 自動ではピントが合いにくいとき
  - 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
  - 被写体が横縞だけのもののとき
  - 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えるとき
- 三脚を使い、静止した被写体をピントを固定して撮るとき

正確にピントを合わせるには
ズームをT側（望遠）でピントを合わせたあと、なるべくW側（広角）で撮るようにズームを調節するとピントが合いやすくなります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

手動でピント合わせをするとき、が次のようなマークに変わります。
無限遠にあるとき。
それ以上近くにピント合わせをすることができないとき。

1 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
フォーカスボタンを押す。
手動ピント合わせ表示が出る。

2 **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻す

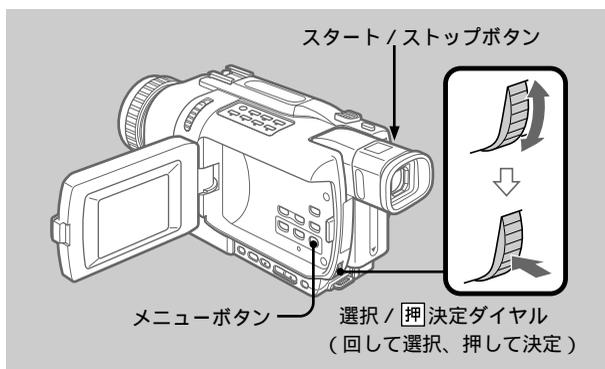
フォーカスボタンを押して、表示を消す。

一定時間おきに撮る – インターバル録画

あらかじめ設定した時間ごとに、録画と録画停止を交互に行います。

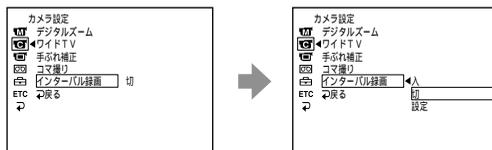
花の開花や、昆虫の羽化などの場面を時間をおいて撮影するとき

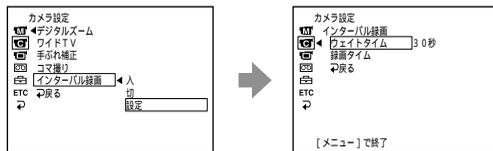
例

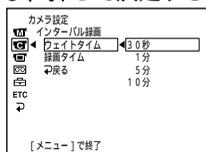
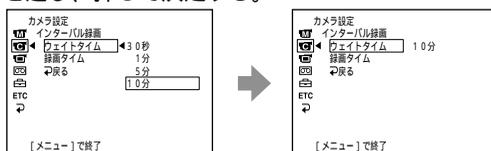
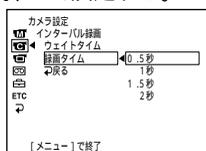
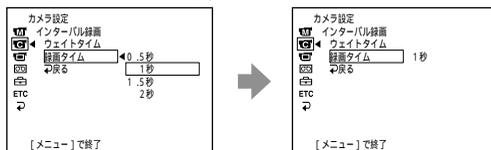
「ウェイトタイム」10分、「録画タイム」1秒を選んだ場合（約10分ごとに、約1秒録画されます。）

❶ ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

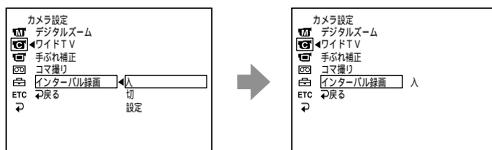
❷ **選択／押 決定ダイヤルで の項目の「インターバル録画」を選び、押して決定する。**

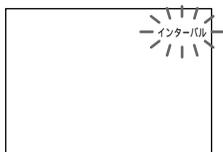
使いこなす－撮影－

次のページへつづく

録画タイムは
最大±6フレーム程度の誤差が出ることがあります。

❸ 選択／押決定ダイヤルで「設定」を選び、押して決定する。

❹ 「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。

1 選択／押決定ダイヤルで「ウェイトタイム」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルで希望のウェイトタイムを選び、押して決定する。

3 選択／押決定ダイヤルで「録画タイム」を選び、押して決定する。

4 選択／押決定ダイヤルで希望の録画タイムを選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルで「戻る」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押 決定ダイヤルで「インターバル録画」の「入」を選び、押して決定する。

❻ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

インターバル表示が点滅する。

❼ スタート／ストップボタンを押す。

インターバル録画が始まる。

インターバル録画中は、インターバル表示が点灯する。

インターバル録画を解除する

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「インターバル録画」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

ウェイトタイム中に通常の録画をする

スタート／ストップボタンを押すと、表示が点滅し、通常の録画が始まる。終了するには、もう1度スタート／ストップボタンを押す。

手順6に戻ります。

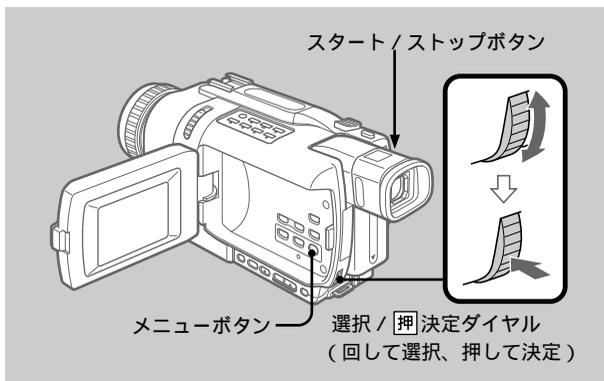
アニメーションのように撮る – コマ撮り

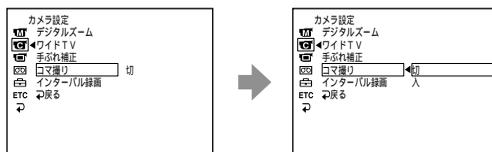
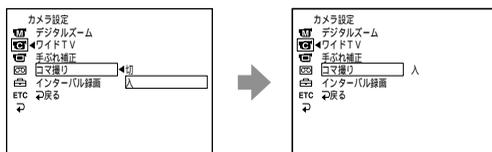
人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。

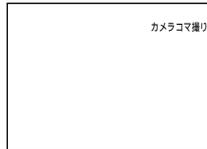
本機を固定し、手順5以降をリモコンで操作することをおすすめします。

ご注意

コマ撮りを連続して行うと、テープ残量表示は正しく表示されません。

コマ撮りをすると
最終カットは通常の1コマよりも長くなります。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❷ **選択／押決定ダイヤルでの項目の「コマ撮り」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルで「入」を選び、押して決定する。**

❹ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

カメラコマ撮り表示が点灯する。

❺ スタート／ストップボタンを押す。

1コマ（約6フレーム）分の撮影が行われ、撮影スタンバイに戻る。

❻ 被写体を動かし、手順5を繰り返す。

コマ撮りを解除するには

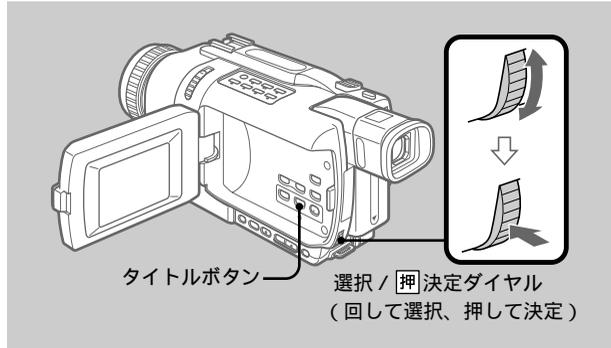
次のいずれかの操作を行います。

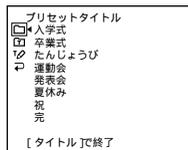
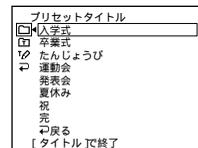
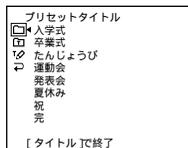
- メニュー画面で「コマ撮り」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

タイトルを入れる

本機にあらかじめ登録してある8種類のタイトルと、自分で作ったオリジナルタイトル2種類（48ページ）の中から選んで、タイトルを入れることができます。また、タイトルの色やサイズ、表示位置も選べます。

タイトルを入れて撮影中に
メニューボタンを押してメニュー画面を表示している間はタイトルが記録されません。

オリジナルタイトルを入れるときは
手順2で「」を選びます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
タイトルボタンを押す。

タイトルメニューが表示される。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して を選び、押して決定する。**

設定表示と表示順
「色設定」
しろ↔きいろ↔むらさき↔あか↔みずいろ↔みどり↔あお

「サイズ設定」
ちいさい↔おおきい
12文字をこえるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。12文字をこえるとサイズ決定後、「ちいさい」サイズに戻ります。

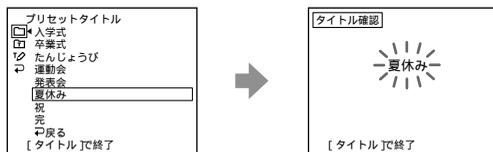
「位置設定」
1↔2↔3↔4↔5↔6↔7↔8↔9
大きい数字になるほど位置が下になります。
サイズ設定で「おおきい」を選んだときは、9の位置は選べません。

タイトルの選択/設定操作をしているときは
画面に出ているタイトルは記録できません。

撮影の途中でタイトルを入れるときは
おしらせブザーは鳴りません。

再生中に
タイトルを重ねることができます。ただし、テープには記録できません。
AV接続ケーブルをつないで他機へダビングするとタイトルも記録することができます。
i.LINKケーブルをつないでダビングする場合はタイトルは記録できません。

❸ 選択/押 決定ダイヤルで入れたいタイトルを選び、押して決定する。

タイトルが点滅する。

❹ 色、サイズ、位置を選択する。

表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順5にすすむ。

1 選択/押 決定ダイヤルを回して「色設定」または「サイズ設定」、「位置設定」を選び、押して決定する。

選べる項目が出る。

2 選択/押 決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

3 必要なだけ1、2を繰り返す。

❺ 選択/押 決定ダイヤルを押して、タイトルを表示させる。

❻ 撮影を始める。

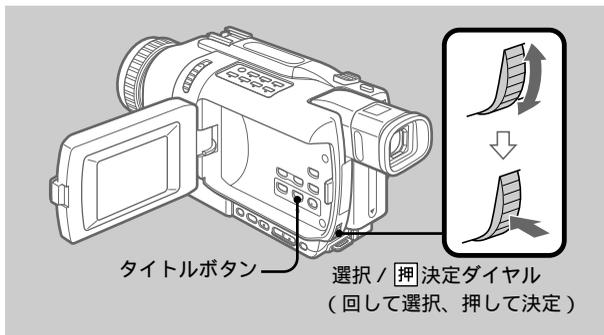
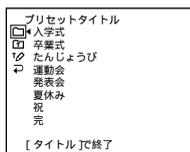
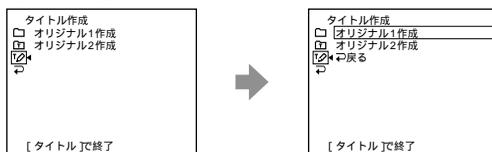
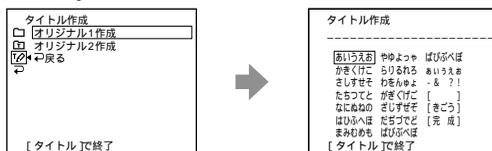
❼ タイトルを消したい場面でタイトルボタンをもう一度押す。

撮影の途中でタイトルを入れるとき

撮影中にタイトルボタンを押し、手順2から5を行う。手順5で選択/押 決定ダイヤルを押したとき、タイトルが記録される。

オリジナルタイトルを作る

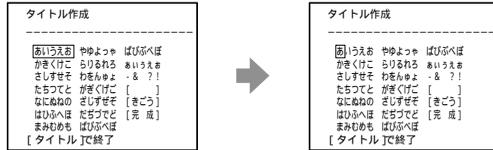
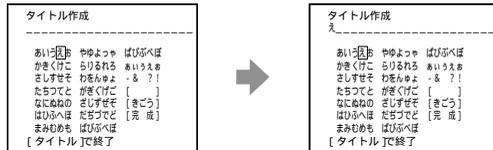
20文字以内のタイトルを自分で作って2種類
まで本機に記憶できます。

[撮影スタンバイ中］でタイトルを作成中に3分以上たつと自動的に電源が切れます。
作成中のタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切（充電）」にして、手順１からやり直してください。
タイトルの作成に3分以上かかりそうなときは「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば電源は切れません。

1 ［撮影スタンバイ中］または電源スイッチを「ビデオ」にしたとき
タイトルボタンを押す。

2 **選択／押 決定ダイヤルでを選び、押して決定する。**

3 **選択／押 決定ダイヤルで「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、押して決定する。**

［きごう］を選ぶと
アルファベットや数字、漢字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
［←］を選ぶと一番後ろの文字が消えます。

漢字変換機能は
ありません。［きごう］にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。

空白を入れたいとき
［ー＆　？！］の文字列の空白部分を選んでください。

❹ 選択／押 決定ダイヤルで希望の文字列を選び、押して決定する。

❺ 選択／押 決定ダイヤルで希望の文字を選び、押して決定する。

❻ 手順4、5を繰り返して希望のタイトルを作る。

❼ 選択／押 決定ダイヤルを回して［完成］を選び、押して決定する。

タイトルが記憶される。

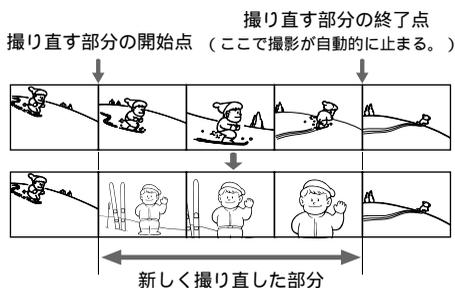
❽ タイトルボタンを押して、タイトル画面を消す。

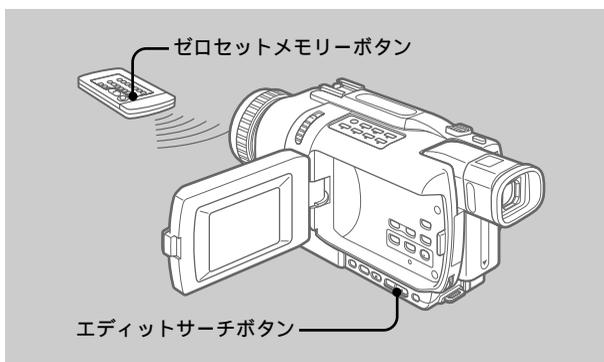
作成したタイトルを変更する

手順3で変更したいオリジナルタイトルを選び、押して決定する。
［←］を選び、ダイヤルを押して文字を消し、文字を選び直す。

一部分だけ撮り直す

撮影した画像の一部分だけをあとで撮り直すことができます。液晶画面を見ながら、撮り直したい部分の始めと終わりを決めて、その部分だけ新しく撮り直します。
リモコンも使います。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 撮り直した部分の終了点で画像や音声が乱れることがあります。

テープの途中に無記録部分があると
ゼロセットメモリーが正しく働かない場合があります。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
エディットサーチボタンを押し続け、撮り直したい部分の終了点で離す。

❷ **リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。**
「ゼロセットメモリー」が点滅し、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❸ **エディットサーチのボタンを押し続け、撮り直したい部分の開始点で離す。**

❹ **撮影する。**
撮り直す部分に新しく録画される。
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に撮影が止まり、撮影スタンバイになる。ゼロセットメモリーは解除される。

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

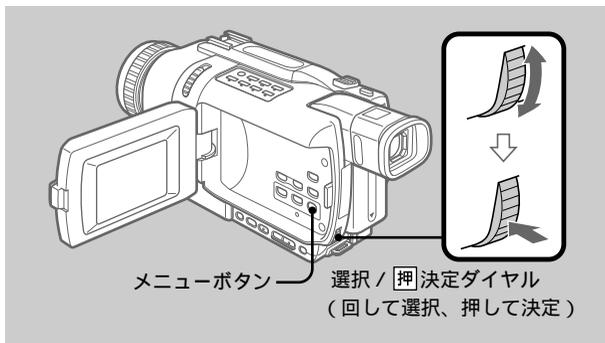
再生しているテープの画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

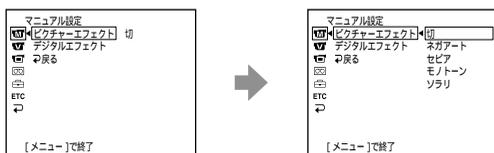
再生中は、ピクチャーエフェクトのうち、ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリが使えます。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、ピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- ピクチャーエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
DV入力／出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❷ **選択／押 決定ダイヤルで の項目の「ピクチャーエフェクト」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押 決定ダイヤルで希望のモードを選ぶ。**
各ピクチャーエフェクトについて詳しくは34ページをご覧ください。

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

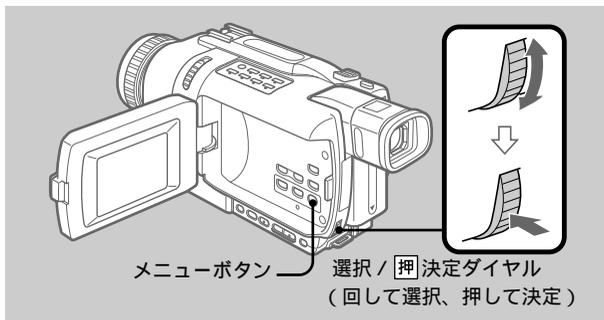
再生しているテープの画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

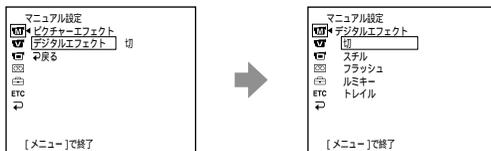
再生中は、デジタルエフェクトのうち、スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルが使えます。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、デジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- デジタルエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は
DV入力／出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］に
メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❷ **選択／押 決定ダイヤルで の項目の「デジタルエフェクト」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選び、押して決定する。**

バーが表示される。
スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ **選択／押 決定ダイヤルを回して、効果を調節する。**

各デジタルエフェクトについて詳しくは35ページをご覧ください。

デジタルエフェクトを解除する

メニューの「デジタルエフェクト 」で「切」を選ぶ。

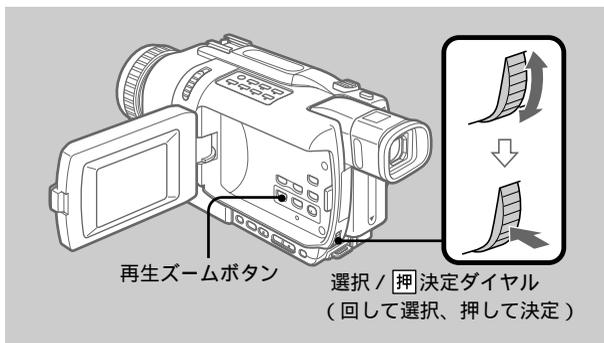
撮影した画像を拡大する－テープ再生ズーム

テープに記録した動画や静止画を拡大できます。

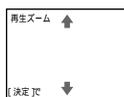
ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、再生ズームはできません。
- 外部入力している画像に再生ズームを加えて見ることはできません。
- 再生ズームを加えた画像は本機のテープに録画できません。本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。

再生ズームを加えた画像は
DV入力／出力端子からは出力されません。

再生ズーム中に以下の操作をすると再生ズームは自動的に解除されます。
– 電源スイッチを「切（充電)」にする。
– 再生を停止する。
– メニューボタンを押す。
– タイトルボタンを押す。

1 ［再生中］または「再生一時停止中」に
再生ズームボタンを押す。

画像の中心部が2倍に拡大され、画像を移動させる方向の↑↓が表示される。

2 **選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を上下に動かし、押して決定する。**

↑：画像が下に移動する。
↓：画像が上に移動する。

3 **選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を左右に動かし、押して決定する。**

←：画像が右に移動する。
（ダイヤルを下へ回す）
→：画像が左に移動する。
（ダイヤルを上へ回す）

再生ズームを解除する

再生ズームボタンを押し、表示を消す。

見たい場面にすばやく戻す－ゼロセットメモリー

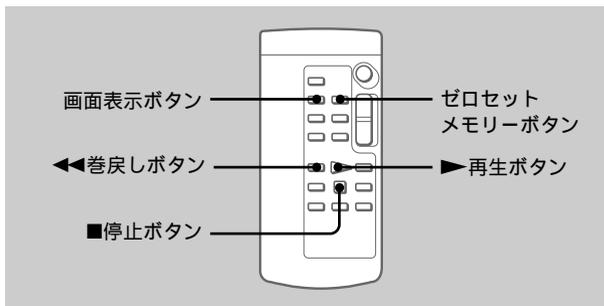
テープカウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。
リモコンも使います。

再生中に、後からもう一度見たいと思う場面があったとき

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。

テープの途中に無記録部分があると
ゼロセットメモリーが正しく働かない場合があります。

❶ ［再生中］に
画面表示ボタンを押す。

❷ **後から見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」になる。
ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **▶再生ボタンを押す。**

テープカウンター値「0:00:00」の場面からもう1度再生される。

撮影日の変わり目を探す－日付サーチ

撮影した日付の変わり目を頭出しできます。

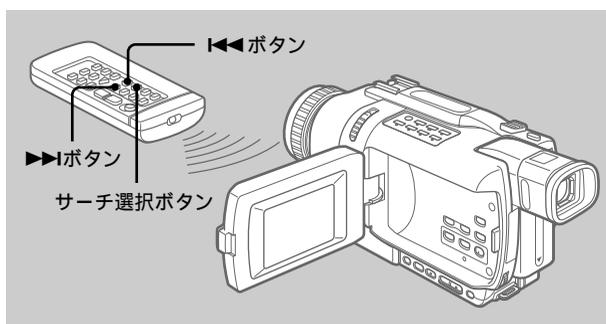
リモコンも使います。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するとき

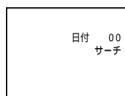
ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、日付サーチはできません。
- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

テープの途中に無記録部分があると

日付サーチが正しく働かないことがあります。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。

次の順で変わります。

→日付サーチ→フォトサーチ
（表示なし）←フォトスキャン←

❸ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

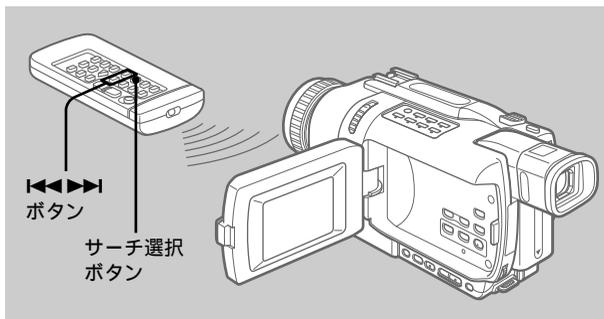
見たい静止画を探す－フォトサーチ／フォトスキャン

テープフォト撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。
また、静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。
リモコンも使います。

静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するとき

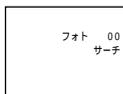
ご注意

Digital8方式以外で記録したテープでは、フォトサーチ／フォトスキャンはできません。

テープの途中に無記録部分があると
フォトサーチ／フォトスキャンが正しく働かないことがあります。

静止画を探す－フォトサーチ

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。

次の順で変わります。
→日付サーチ→フォトサーチ
（表示なし）←フォトスキャン←

❸ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

静止画が再生される。

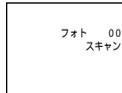
ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の静止画が再生される。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

静止画を次々に探すーフォトスキャン

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ サーチ選択ボタンを押して、フォトスキャンを選ぶ。

❸ リモコンの⏮またはボ⏭タンを押す。

静止画が約5秒ずつ再生される。

フォトスキャンを止める

■ 停止ボタンを押す。

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を再生機として使い、接続したビデオで録画・編集できます。

録画機は以下のどの方式のビデオでも使えます。

8, Hi8, VHS, VHS C, S VHS, S VHS C, β, ED Beta, Mini DV, DV, D8, MICROMV

録画機の音声入力がひとつ（モノラル）の場合

AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと

録画画像がより忠実に再現できます。ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とビデオのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

- メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）
- 画面表示ボタン、リモコンのデータコードボタン／サーチ選択ボタンを押して画面表示を消してください。消さないでダビングするとテープに記録されます。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。

録画機：録画用カセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

ビデオ入力端子にAV接続ケーブルをつなぐ。

入力切り換えスイッチを「外部入力（ライン）」にする。詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

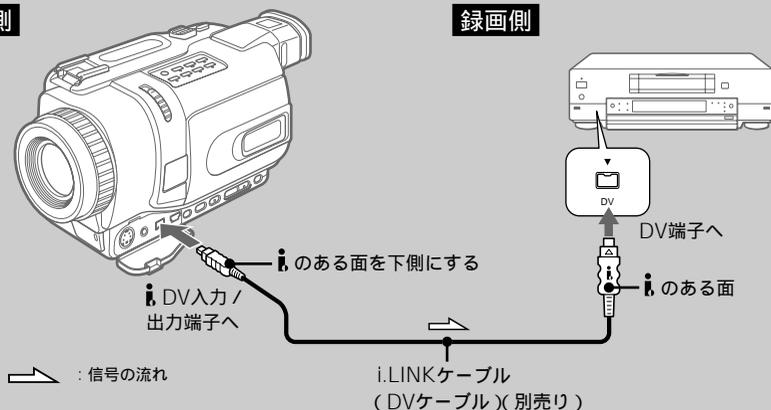
❺ 録画機で録画を始める。

詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を、1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎダビング編集ができます。
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。
画面表示はダビングできません。

Digital8方式以外で記録したテープでは
画像が乱れることがありますが、故障ではありません。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中は
DV入力／出力端子からの映像信号はデジタル信号が出力されます。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです。
i.LINKについて詳しくは、110ページをご覧ください。

「ピクチャーエフェクト」「デジタルエフェクト」「再生ズーム」を加えた画像は
DV入力／出力端子からは出力されません。

再生一時停止にしている画像は
DV入力／端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。
録画機：録画用カセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画を始める。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

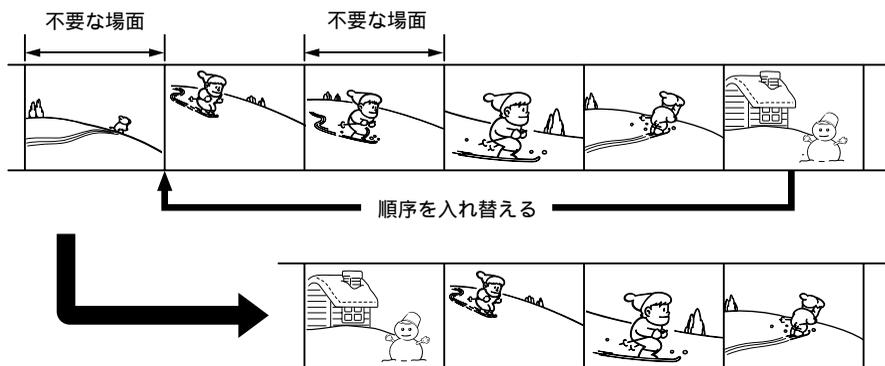
ダビングが終わったら

録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする
－デジタルプログラムエディット

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに他機のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。
最大20プログラムまで設定できます。

ご注意

- Digital8 ⦗D⦘方式以外で記録したテープでは、デジタルプログラムエディットはできません。
- i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したとき、録画機の機種により正しく操作できない場合があります。本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定してください。
- デジタルプログラムエディットの操作信号は、LANC ◐ 端子では送信できません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐと
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

デジタルプログラムエディットには、次の準備が必要です

準備1： 録画機をつなぐ（60ページ）

準備2： 録画機を操作するための設定をする
－AV接続ケーブルでつなぐ（61ページ）
－i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ（64ページ）

準備3： 録画機のタイミングを補正する（65ページ）

上記の準備を1度行った録画機を使用する場合は準備2、3は不要です。

操作は以下の順で行います

操作1： プログラムをつくる（67ページ）

操作2： プログラムを実行する（ダビングする）（70ページ）

準備1 録画機をつなぐ

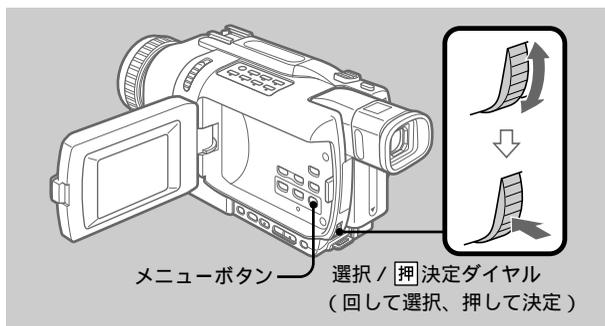
AV接続ケーブル、i.LINKケーブル（DVケーブル）どちらでも接続できます。AV接続ケーブルの場合は58ページ、i.LINKケーブル（DVケーブル）の場合は59ページの図のように接続します。

リモコンコードについて
本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの機器のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「3」に設定されています。

メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、56、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
ＮＥＣ	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードが対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

準備2 録画機を操作するための設定をする ー AV接続ケーブルでつなぐ

AV接続ケーブルで接続したときは、本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に録画機を操作するための信号を送ります。
正しく信号を送るために、以下の設定（❶〜❹）を行ってください。

❶ リモコンコードを設定する。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

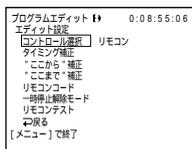
2 録画機の電源を入れ、入力切換を選ぶ。

録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

4 選択／押決定ダイヤルでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルで「エディット設定」を選び、押して決定する。

次のページへつづく

6　選択／押決定ダイヤルで「コントロール選択」を選び、押して決定する。

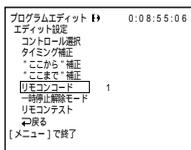
7　選択／押決定ダイヤルで「リモコン」を選び、押して決定する。

8　選択／押決定ダイヤルを回して「リモコンコード」を選んだのち、録画機のリモコンコード（番号）を選び、押して決定する。

「リモコンコードについて」（61ページ）を参照する。

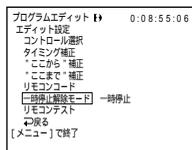
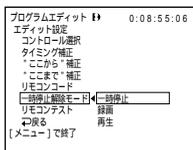
❷ 録画機の録画一時停止解除モードを設定する。

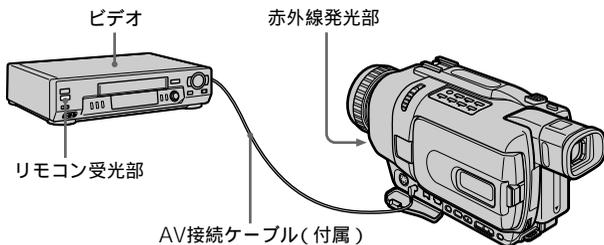
選択／押決定ダイヤルで「一時停止解除モード」を選んだのち、録画機の録画一時停止解除モードを選び、押して決定する。

詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

録画一時停止解除モードについて

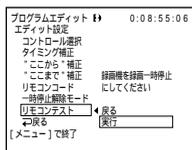
お使いの録画機で録画一時停止を解除し、録画を始めるときに押すボタンを下記よりお選びください。（ボタンの種類は録画機により異なります。）

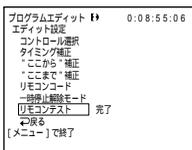
それぞれのボタンに合った録画一時停止解除モードを設定してください。

録画機のボタン	録画一時停止解除モード
❚❚（一時停止）	「一時停止」
●（録画）	「録画」
►（再生）	「再生」

❸ 本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

機器の距離は約30cm離し、間に障害物等がない状態にする。

❹ 録画機が正しく動作するか確認する。

1　録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

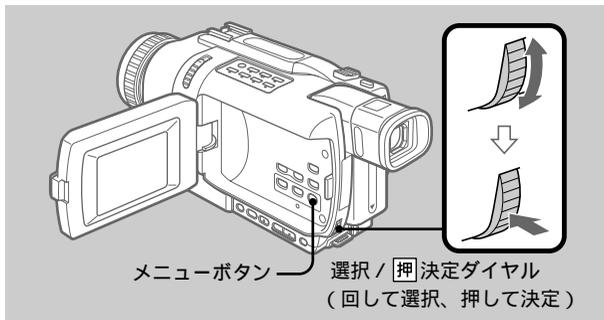
2　選択／押決定ダイヤルで「リモコンテスト」を選び、押して決定する。

3　選択／押決定ダイヤルで「実行」を選び、押して決定する。

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されている。
終了すると本機の表示は「完了」に変わる。

録画機が正しく動作しないときは

- 「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、「リモコンコード」または「録画一時停止解除モード」を設定し直す。
- 本機と録画機を約30cmまで離す。
- 録画機の取扱説明書をご確認ください。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐと
タイトル、画面表示はダビングできません。

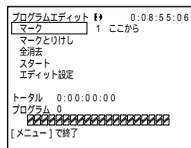
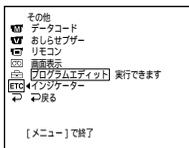
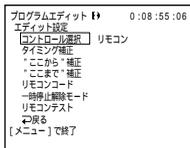
準備2 録画機を操作するための設定をする ーi.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

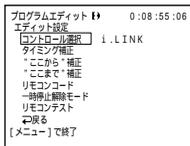
i.LINKケーブル（DVケーブル）で接続したときはこの設定を行います。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 録画機の電源を入れ、入力切換を「DV入力」にする。

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

4 選択／押 決定ダイヤルでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、押して決定する。

5 選択／押 決定ダイヤルで「エディット設定」を選び、押して決定する。

6 選択／押 決定ダイヤルで「コントロール選択」を選び、押して決定する。

7 選択／押 決定ダイヤルで「i.LINK」を選び、押して決定する。

ご注意

- タイミング補正用の画像が約50秒間録画されます。
- テープの頭から記録すると、始めの部分が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。
- i.LINKケーブル（DVケーブル）接続で録画機の操作がうまく行えないときは、接続はそのままで、AV接続ケーブルでの設定（61ページ）を行ってください。映像／音声はデジタル信号で送られます。

準備3 録画機のタイミングを補正する

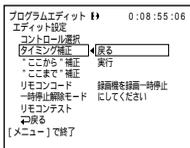
筆記具をご用意ください。
本機の動作と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。
本機のテープを取り出しておいてください。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

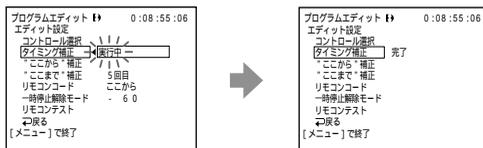
2 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

「コントロール選択」で「i.LINK」を選んだときは、録画一時停止にする必要はありません。

3 選択／押 決定ダイヤルで「タイミング補正」を選び、押して決定する。

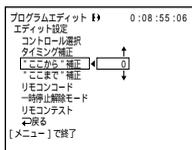
次のページへつづく

4 選択／押決定ダイヤルで「実行」を選び、押して決定する。

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画される。

終了すると本機の表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わる。

5 録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。

5回分の「ここから」のカウンター数値と「ここまで」のカウンター数値が表示される。これらのカウンター数値の中から、各回ごとに「ここから」の最初に表示される数値と「ここまで」の最後に表示される数値をメモする。

6 「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。

7 選択／押決定ダイヤルで「”ここから”補正」を選び、押して決定する。

8 選択／押決定ダイヤルで「ここから」の平均値の数値を選び、押して決定する。

録画開始のタイミングが補正される。

❾ 選択／押決定ダイヤルで「”ここまで”補正」を選び、押して決定する。

❿ 選択／押決定ダイヤルを回して「ここまで」の平均値の数値を選び、押して決定する。

録画停止のタイミングが補正される。

⓫ 選択／押決定ダイヤルで「戻る」を選び、押して決定する。

ご注意

- メニューで「再生モード」を「Hi8／8」にしたとき、デジタルプログラムエディットはできません。
- デジタルプログラムエディット操作中は録画することはできません。

テープの次の部分には「ここから」「ここまで」の設定はできません

- 無記録部分
- Digital8 方式以外で記録された部分

次の場合、タイムコードが正しく表示されません

- Digital8 方式以外で記録したテープ
- 「ここから」と「ここまで」の間に無記録部分がある

操作1 プログラムをつくる

❶ 本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、押して決定する。

編集する—ダビングなど—

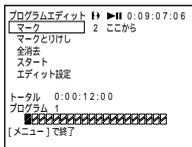
❹ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。

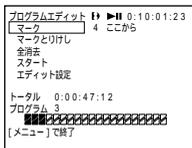
エディットサーチ＋／－⊖ボタンで微調整できます。

❺ 選択／[押]決定ダイヤルを押す。

最初のプログラム「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

❻ ビデオ操作ボタンを使って、録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

❼ 選択／[押]決定ダイヤルを押す。

最初のプログラム「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

❽ 手順4～7を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。
最大20プログラムまで設定できます。

一度設定したプログラムを消す

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

❶ **選択／押決定ダイヤルで「マークとりけし」を選び、押して決定する。**

❷ **選択／押決定ダイヤルで「実行」を選び、押して決定する。**

最後に設定したプログラムマークが点滅し、設定が取り消されます。

消去を中止する

手順2で「戻る」を選び、押して決定する。

プログラムの全消去

❶ **選択／押決定ダイヤルで「プログラムエディット」を選択したのち、「全消去」を選び、押して決定する。**

❷ **選択／押決定ダイヤルで「実行」を選び、押して決定する。**

設定したプログラムマークすべてが点滅し、設定が取り消されます。

全消去を中止する

手順2で「戻る」を選び、押して決定する。

プログラムを中止する

メニューボタンを押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

以下の場合には、録画機で録画できません

- テープが終わりになっている。
- テープが誤消去防止状態になっている。
- リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき）
- 録画一時停止解除モードがまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）

以下の場合には、「実行できません」と表示され、ダビングできません

- プログラムが未設定
- i.LINKケーブル（DVケーブル）を接続していない。（「i.LINK」に設定したとき）
- 接続している録画機の電源が入っていない。（「i.LINK」に設定したとき）

操作2 プログラムを実行する（ダビングする）

機器の接続と録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKケーブル（DVケーブル）での接続のときは不要です。）

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❶ 選択／押 決定ダイヤルで「プログラムエディット」を選択したのち、「スタート」を選び、押して決定する。

❷ 選択／押 決定ダイヤルで「実行」を選び、押して決定する。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。

本機には、サーチ中は「サーチ中」、録画中は「エディット中」が表示される。

ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが水色に変わる。

ダビングが終わると本機も録画機も自動的に停止する。

エディット中にダビングを中止する

ビデオ操作ボタンの■停止ボタンを押す。

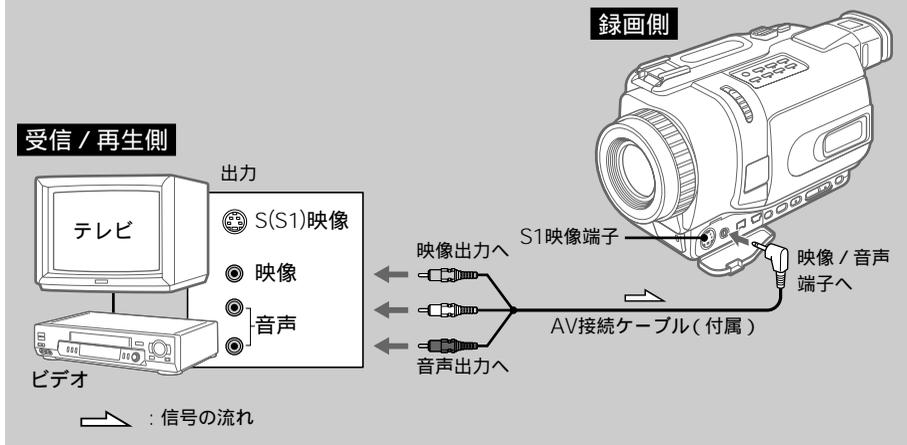
デジタルプログラムエディットを終了する

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

メニューボタンを押し、表示を消す。

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、再生側のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

ご注意

- よりよいつなぎ撮りのために、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録した画像と、Digital8方式で記録した画像をひとつのテープに混在させないことをおすすめします。
- 再生側のビデオで早送りやスロー再生などを行うと、本機で録画中の画像が乱れることがあります。テープを通常速度で再生してください。

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ（モノラル）の場合

AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）

1 カセットを準備する。

本機　：録画用カセットを入れる。

再生機：ビデオから録画するときは、録画済みのカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐにII一時停止ボタンを押す。

4 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

ビデオやテレビの画像が液晶画面またはファインダーに出る。

次のページへつづく

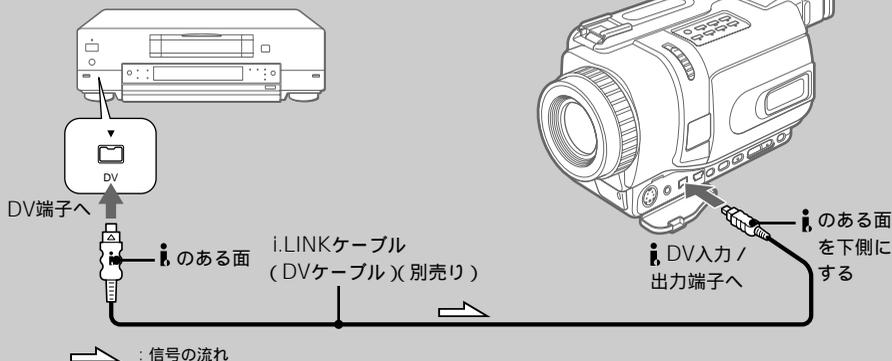
別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより忠実に再現できます。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオまたはテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

❺ 録画したい場面でII一時停止ボタンを押して録画を始める。

ダビングが終わったら

本機で録画を停止し、再生機で再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎ本機で録画、編集ができます。
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです。

デジタルダビング編集中は
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響はありません。

再生一時停止にしている画像は
DV入力／出力端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

録画を始める前に
画面表示ボタンを押して、「DV入力」の表示が出るのを確認してください。表示は両方の機器に出ることもあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：録画用カセットを入れる。
再生機：録画済みのカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

❹ 再生機で再生する。

DV機器の画像が液晶画面またはファインダーに出る。

❺ 録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

ダビングが終わったら

本機で録画を停止し、再生機で再生を停止する。

撮影したテープに新しく画像を挿入する

撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。
リモコンも使います。

71ページまたは73ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

(a)
テープの走行方向
挿入したい部分

挿入したい部分の入ったテープ（他機）

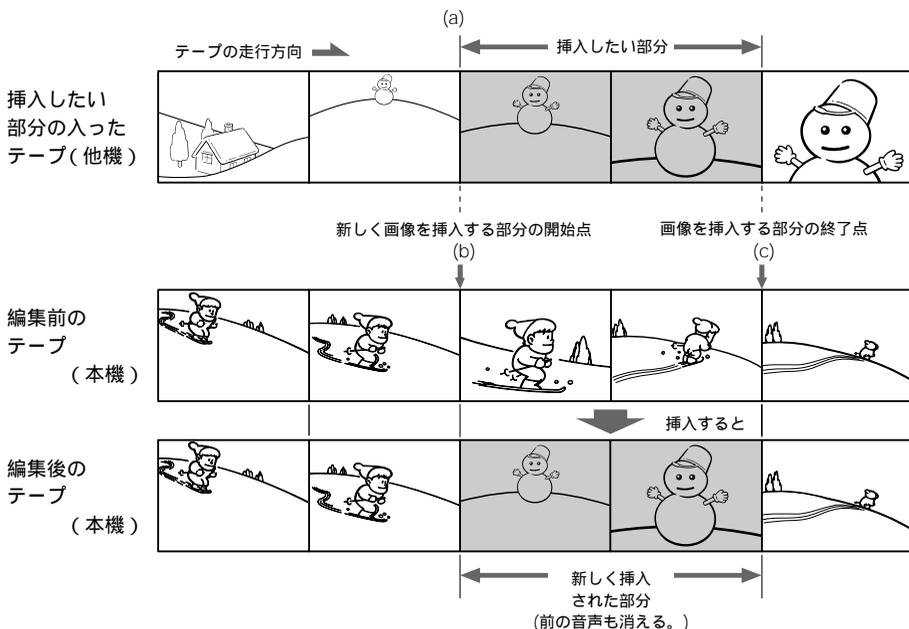
新しく画像を挿入する部分の開始点
(b)
画像を挿入する部分の終了点
(c)

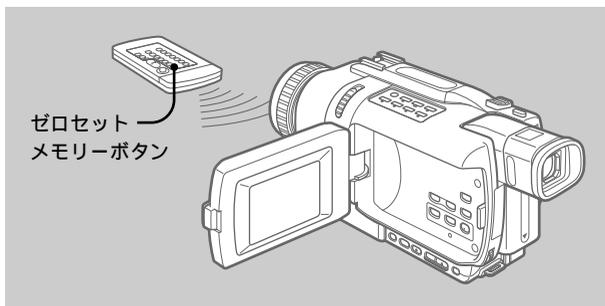
編集前のテープ（本機）

挿入すると

編集後のテープ（本機）

新しく挿入された部分
(前の音声も消える。)

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

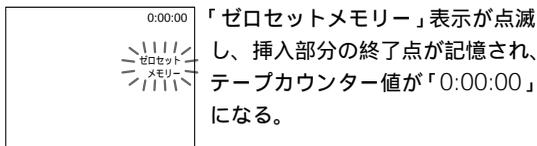
新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❷ **他機（再生側）で、挿入したい部分（a）の少し前で、再生一時停止状態にする。**

❸ **本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。**

❹ **リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。**

「ゼロセットメモリー」表示が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❺ **本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。**

●録画ボタンを2つ同時に押す。

❻ **他機（再生側）のII一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本機のII一時停止ボタンを押す。**

本機の挿入部分に、新たに他機（再生側）の映像と音声が記録され始める。

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除される。

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順3からやり直す。

画像をパソコンで見る－はじめに

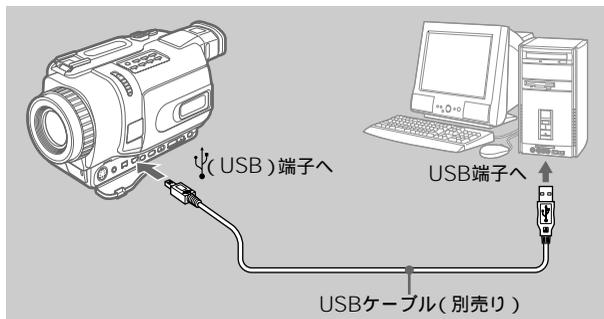
画像をパソコンでご覧になるには、下記の接続をしてください。

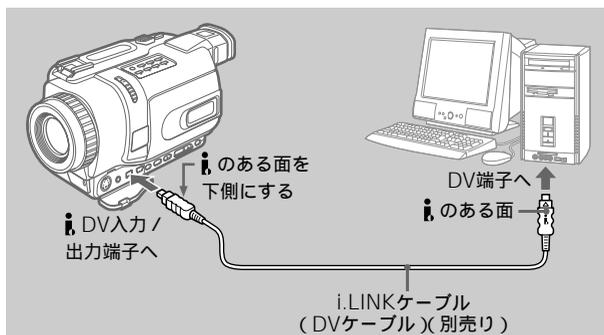
	本機の接続端子	接続ケーブル	パソコンに必要な環境
テープの静止画・動画	USB端子	USBケーブル（別売り）	USB端子、編集ソフト
	DV端子	i.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）	DV端子、編集ソフト
本機のカメラ画像	USB端子	USBケーブル（別売り）	USB端子、編集ソフト

お持ちのパソコンの各端子、編集ソフトについては、パソコンメーカーにお問い合わせください。

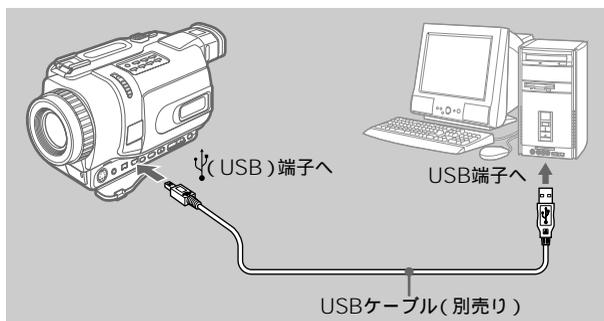
テープの画像を見る

USB端子でパソコンと接続するとき

詳しくは78ページをご覧ください。

DV入力／出力端子でパソコンと接続するとき

お持ちのパソコンにDV端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトがインストールされている必要があります。

カメラの画像を見る

USB端子でパソコンと接続する

詳しくは78ページをご覧ください。

パソコンで画像を見る－Windowsをお使いの方へ

パソコンで画像を見るには、別売りのパソコン接続キット（DPCK-US20）が必要です。

本機とパソコンをUSB接続すると、本機の撮影画像や再生画像をパソコンで見ることができます（USBストリーミング機能）。さらに画像を取り込むと、パソコンのソフトウェアで加工したり、Eメールに添付したりできます。

USB接続をして本機の画像をパソコンで見る

1. USBドライバをインストールする（79ページ）。
2. “PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”をインストールする（84ページ）。
3. “PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”で画像を取り込む（85ページ）。

パソコンの推奨使用環境

推奨Windows環境

OS： Microsoft Windows 98SE, Windows Me, Windows 2000 Professional, Windows XP Home Edition, Windows XP Professional

上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。

上記のOS内でもアップグレードされた場合は保証いたしません。

Windows 98では音声が出ませんが、静止画の取り込みはできます。

CPU： Pentium Ⅲ 500 MHz以上が必要です。（Pentium Ⅲ 800 MHz以上を推奨します。）

必要ソフトウェア：
DirectX 8.0a以降が必要です。

サウンドカード：
16ビットのステレオサウンドカード及びスピーカ

メモリ：64 MB以上が必要です。

ハードディスク：
インストールに必要な空きディスク容量： 約200MB以上
推奨するハードディスクの空き容量：
1GB以上（編集する画像ファイルのサイズにより異なります。）

ディスプレイ：4MBのVRAMを搭載したビデオカード、解像度は800×600 ドット以上、High Color（16bitカラー、65,000色）、Direct Draw ドライバ対応（800×600 ドット未満、256色以下では正常に動作しません。）

その他：DirectXテクノロジに対応しておりますので、ご使用の際は DirectXが組み込まれている必要があります。

USB端子が標準で装備されていることが必要です。

この機能はMacintosh**ではご使用になれません。**

ご注意

- 1台のパソコンで2つ以上のUSB接続をされる場合、またハブをご使用の場合は動作保証致しません。
- 同時に使われるUSB機器によっては動作致しません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- WindowsおよびWindows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他本書で登場するシステム名、製品名は一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお本文では™、®マークは明記していません。

ご注意

USBドライバのインストールが完了する前にUSBケーブルを接続すると、USBドライバが誤って登録されます。81ページの手順に従って、もう一度インストールしてください。

USBドライバをインストールする

本機をパソコンに接続するには、お手持ちのパソコンにUSBドライバのインストールが必要です。USBドライバは、パソコン接続キット（DPCK-US20）（別売り）に付属しているCD-ROMに、画像を見るためのアプリケーションソフトとともに収録されています。

以下の操作はUSBケーブルを接続しないで行ってください。USBケーブルは手順8で接続してください。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合はAdministrator、Windows XP をお使いの場合は、コンピュータの管理者権限が必要です。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

2 パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

アプリケーションソフトが起動し、タイトル画面が表示されます。

3 「USB Driver」をクリックする。

USBドライバのインストール画面が起動します。

パソコンと接続する

次のページへつづく

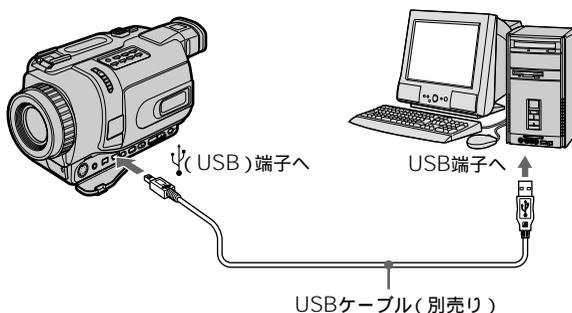
❹ 画面の指示に従ってUSBドライバをインストールする。

❺ 本機にACパワーアダプターを接続する。

❻ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❼ メニューで⊟の項目の「USBストリーム」を「入」にする。（91ページ）

❽ パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットして、パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機のψ（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。

パソコンが本機を認識し、「ハードウェアの追加ウィザード」が起動します。

❾ 「ハードウェアの追加ウィザード」画面の指示に従ってハードウェアを認識させる。

3種類のUSBドライバをインストールするため、「ハードウェア追加ウィザード」は3回起動します。
途中で中断せずに最後までインストールしてください。

Windows 2000 ProfessionalまたはWindows XPをお使いの場合のみ

⑩ 「ファイルが必要」と表示されたら、「参照...」→「マイコンピュータ」→「IMAGEMIXER」→「sonyhcb.sys」の順で開き、「OK」をクリックする。

インストールが終了したら、84ページの「"PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony"をインストールする」へお進みください。

USBドライバがインストール出来ない場合

USBドライバのインストールが完了する前に、本機とパソコンを接続したためUSBドライバが誤って登録されています。以下の手順を行ってください。

手順1：誤って登録されたUSBドライバをアンインストールする

1. パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。
2. パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。
3. 本機にACパワーアダプターを接続して、本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

4 パソコンの「デバイスマネージャ」を開く。

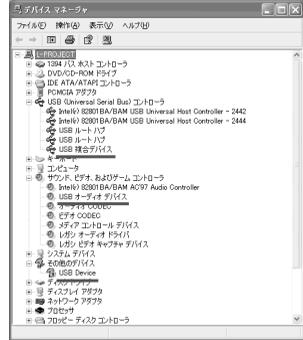
- Windows XP**をお使いの場合：**
  「スタート」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェア」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。
  「コントロールパネル」をクリックし「作業する分野を選びます」の中に「システム」がない場合、「クラシック表示に切り替える」をクリックする。
- Windows 2000 Professional**をお使いの場合：**
  「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェア」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。
- Windows 98SE/Windows Me**をお使いの場合：**
  「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。

5 下線で示したデバイスを選び削除する。

Windows 98SE

Windows Me

Windows XP

Windows 2000 Professional

6 本機の電源を「切（充電）」にして、USBケーブルを抜く。

7 パソコンを再起動する。

手順2：パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMよりUSBドライバをインストールする

79ページの「USBドライバをインストールする」の手順を行ってください。

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”をインストールする

パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”を使うと、本機で録画した画像データをお使いのパソコンで手軽に見ることができます。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合、Power UserまたはAdministrator権限が必要です。Windows XPをお使いの場合、コンピュータの管理者権限が必要です。

---

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

パソコンを使用中の場合には、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。

---

2 パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。

タイトル画面が表示されないときは、「マイコンピュータ」をダブルクリックしたあと「ImageMixer」（CD-ROMドライブ）をダブルクリックしてしばらくすると表示されます。

---

3 「PIXELA ImageMixer」をクリックする。

インストールウィザードプログラムが起動し、「設定言語の選択」画面が表示されます。

---

❹ **インストール時の設定言語を選択する。**

❺ **画面の指示に従って操作する。**

インストールが終了すると、インストール画面が消えます。

❻ **「DirectX」をクリックする。**

画面の指示に従って操作し、DirectXをインストールする。

インストールが終了したら、パソコンを再起動してください。

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”で画像を取り込む

Windows 2000 Professionalをお使いの場合、Power UserまたはAdministrator権限が必要です。Windows XPをお使いの場合、コンピュータの管理者権限が必要です。

画像を見る

◆テープに記録された画像を見る

❶ **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**

❷ **パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の ψ（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

❸ **本機にACパワーアダプターを接続し、カセットを入れる。**

パソコンと接続する

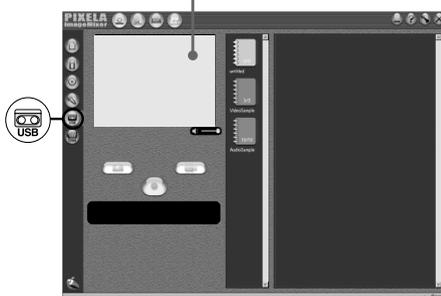
次のページへつづく

❹ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューでの項目の「USBストリーム」を「入」にする。（91ページ）

❺ Windows上で「スタート」→「プログラム」→「PIXELA」→「ImageMixer」→「ImageMixer Ver.1.0 for Sony」の順に開く。

❻ 画面一番左のをクリックする。

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”が起動し、タイトル画面が表示されます。

❼ をクリックする。

❽ 本機の►再生ボタンを押して、テープの再生を始める。

プレビュー画面にテープの再生画像が表示されます。

ご注意

- 以下のことが起こる場合がありますが、故障ではありません。
  ー画像が上下に揺れる。
  ー画像によってはノイズが出るなど正しく表示されない。
  ー本機とカラー方式が異なる画像が正しく表示されない。
- テープを入れた状態でスタンバイモードが3分以上続くと、自動的に電源が切れます。テープが入っていない状態でスタンバイモードのときは、メニューで「デモモード」を「切」にしておくことをお勧めします。
- 本機の画面表示は取り込まれません。

画像が映らない場合
USBドライバのインストールをする前にパソコンと本機が接続されたために、誤ったドライバが認識されています。81ページの手順に従って、もう一度インストールしてください。

不具合が生じたときは
起動しているすべてのアプリケーションを終了し、再起動してください。

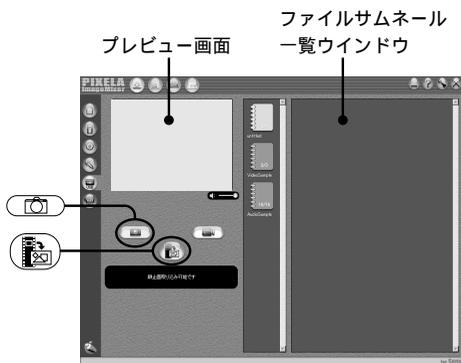
以下の操作を行うときは、アプリケーションを終了してから行ってください
– USBケーブルを抜く。
– 本機の電源スイッチを切り換える、または「切（充電）」にする。

◆本機のカメラ画像を見る

❶ 85ページの手順1、2を行い、本機にACパワーアダプターを接続する。

❷ 本機の電源スイッチを「カメラ」にして、メニューでの項目の「USBストリーム」を「入」にする。（91ページ）

❸ 86ページの手順5から7を行う。
プレビュー画面に本機のカメラ画像が表示されます。

画像を取り込む

◆静止画を取り込む

❶ をクリックする。

❷ プレビュー画面を見ながら、取り込みたい静止画のところで をクリックする。
静止画が取り込まれます。
取り込まれた画像は、ファイルサムネール一覧ウインドウに表示されます。

パソコンと接続する

◆動画を取り込む

❶ （ムービーボタン）をクリックする。

❷ プレビュー画面を見ながら、取り込みたい動画の最初の場面で（●）をクリックする。

（●）が（■）へと変わります。

❸ 取り込みたい場面の最後で（■）をクリックする。

取り込まれた画像は、ファイルサムネール一覧ウインドウに表示されます。

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”のオンラインヘルプ（取扱説明）を見る

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”には、詳しい操作方法を調べることができるオンラインヘルプ（取扱説明）が用意されています。

❶ **画面右上の？をクリックする。**

オンラインヘルプ画面が表示されます。

❷ **目次から調べたり、キーワードを指定して検索する。**

オンラインヘルプを閉じる

画面右上の☒をクリックする。

“PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony”**に関するお問い合わせ**

“ImageMixer Ver.1.0 for Sony”はピクセラ社製です。

お問い合わせはピクセラ社までお願い致します。

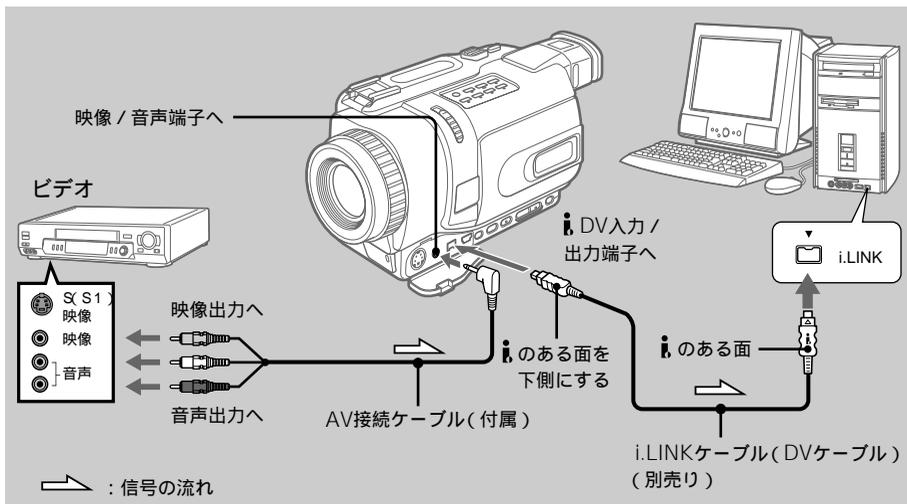
詳しくは、別売りのパソコン接続キットに付属の取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使用するときのご注意

パソコンとの通信

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
ーデジタル変換機能

アナログビデオ機器に録画した映像、音声を本機を通して、i.LINK端子を持つパソコンに接続して取り込めます。

ご注意

- ビデオ信号の取り込みができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しい映像を出力することができないことがあります。
- 著作権保護の為の信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。
- AV接続ケーブル（付属）のかわりにS映像ケーブル（別売り）を使ってパソコンに取り込むことができます。

USB端子があるパソコンでは
USBケーブルを使って接続することができますが、映像がなめらかに映らないことがあります。

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

3 選択／押 決定ダイヤルで の項目の「A／V入力→DV出力」を「入」にする。

4 アナログビデオ機器で再生を始める。

5 パソコンで取り込みを始める。

取り込む操作は、お使いになるパソコンのソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いになるソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取り込みが終わったら

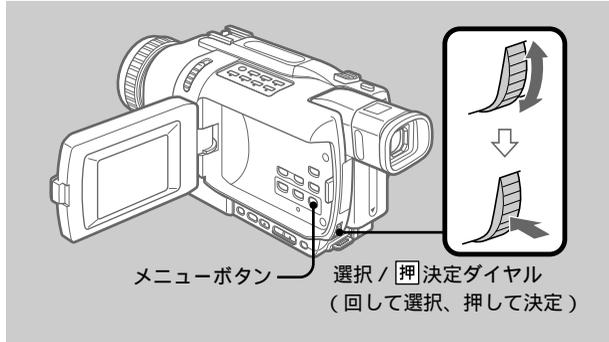
パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器で再生を停止する。

メニューでお買い上げ時の設定を変える

画面上のメニュー項目を、選択／押決定ダイヤルで選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。

次の順で選択します。
メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

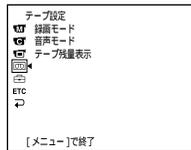
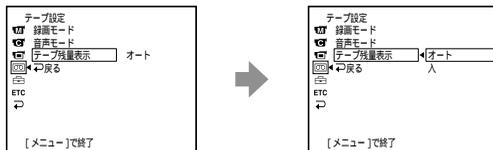
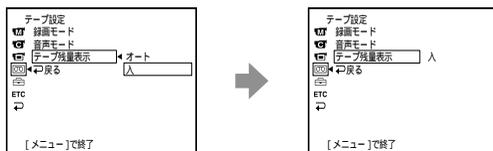
- マニュアル設定
- カメラ設定
- ビデオ設定
- パネル/VF設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

1 電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしたとき
メニューボタンを押す。

「カメラ」のとき

「ビデオ」のとき

2 **選択／押決定ダイヤルを回して希望のアイコンを選び、押して決定する。**

設定を変える

次のページへつづく

❸ 選択／押 決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

❹ 選択／押 決定ダイヤルを回して設定を切り換え、押して決定する。

❺ 必要なだけ手順2〜4を繰り返す。

手順2に戻るには、選択／押 決定ダイヤルを回して「戻る」を選び、ダイヤルを押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（93ページ）をご覧ください。

メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、そのとき使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
M（マニュアル設定）			
プログラムAE	—	被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行う。（37ページ）	「カメラ」
ピクチャーエフェクト	—	画像にテレビや映画のような特殊効果を加える。（34、51ページ）	「カメラ」「ビデオ」
デジタルエフェクト	—	デジタル機能を使って、画像に演出を加える。（35、52ページ）	「カメラ」「ビデオ」
フラッシュモード	●入	周囲の明るさにかかわらず発光する。	「カメラ」
	オート	フラッシュ（別売り）が自動的に発光する。	
	オート 👁	撮影前に予備発光し、目が赤く映ることを抑制する。	
フラッシュレベル	明るい	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より多くする。	「カメラ」
	●ノーマル	通常の設定	
	暗い	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より少なくする。	
N.S.**ライト**	●入	NIGHTSHOTライトを使用する。（23ページ）	「カメラ」
	切	NIGHTSHOTライトを使用しない。	
オートシャッター	●入	明るいとき、自動的に電子シャッターが働く。	「カメラ」
	切	明るいときでも、自動的に電子シャッターが働かない。	

フラッシュモード、フラッシュレベルについて

- フラッシュモード、フラッシュレベルに対応していない外部フラッシュでは設定できません。
- 外部フラッシュ（別売り）を取り付けたときのみ使えます。

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（カメラ設定）			
デジタルズーム	●切	デジタルズームが働かない。25倍までのズームが働く。	「カメラ」
	50×	ズームが25倍を超えると50倍までデジタルズームが働く。（18ページ）	
	300×	ズームが25倍を超えると300倍までデジタルズームが働く。（18ページ）	
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	「カメラ」
	入	ワイド録画モードにする。（31ページ）	
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	
コマ撮り	●切	コマ撮り機能を働かせない。	「カメラ」
	入	コマ撮り機能を働かせる。（44ページ）	
インターバル録画	入	インターバル録画機能を働かせる。（41ページ）	「カメラ」
	●切	インターバル録画機能を働かせない。	
	設定	インターバル録画機能の「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。	

手ぶれ補正は

- 手ぶれ補正が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると

本機を左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示が出ます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（ビデオ設定）			
バイリンガル	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（108ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
TBC*	●入	ジッター（再生時の画像の横ユレ）を低減する。	「ビデオ」
	切	画像の乱れ補正が働かない。（ダビングなどを繰り返したり、ゲーム機の信号などを記録したテープを再生するとき）	
TBCとは Time Base Corrector（タイム ベース コレクター）の略です。			
DNR*	●入	画像の色ノイズを目立たなくする。	「ビデオ」
	切	動きの激しい画像のとき残像を目立たなくする。	
DNRとは Digital Noise Reduction（デジタル ノイズ リダクション）の略です。			
音声ミックス	—	音声モードST1←→ST2間のバランスを調節する。 ST1 ▲ ST2	「ビデオ」
A／V**入力** → DV**出力**	●切	本機を通してデジタルの画像音声をアナログ出力する。	「ビデオ」
	入	本機を通してアナログの画像音声をデジタル出力する。（90ページ）	
再生モード	●オート	再生テープを自動判別（Hi8/スタンダード8ミリ方式またはDigital8方式）して、再生する。	「ビデオ」
	Hi8／8	自動判別できないHi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生する。	

* Hi8/スタンダード8ミリ方式での再生時のみ

音声ミックスは
- 16ビットモードで記録されたテープのバランスを調節することはできません。
- Digital8方式以外で記録したテープのバランスを調節することはできません。

再生モードは
- 次のときお買い上げ時の設定に戻ります。
  – 電源をはずしたとき
  – 電源スイッチを切り換えたとき

設定を変える

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（パネル／VF設定）			
パネル明るさ	—	液晶画面の明るさを選択／押決定ダイヤルを回して、バーで調節する。 暗くなる　明るくなる	「カメラ」 「ビデオ」
パネルバックライト	●明るさノーマル	液晶画面のバックライトを標準の明るさにする。	「カメラ」 「ビデオ」
	明るい	液晶画面のバックライトをより明るくする。	
パネル色のこさ	—	液晶画面の色のこさを選択／押決定ダイヤルを回して、バーで調節する。 うすくなる　こくなる	「カメラ」 「ビデオ」
VF**バックライト**	●明るさノーマル	ファインダーのバックライトを標準の明るさにする。	「カメラ」 「ビデオ」
	明るい	ファインダーのバックライトをより明るくする。	

「パネルバックライト」「VFバックライト」は
- 「明るい」を選ぶと撮影時のバッテリー使用時間が約１割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは自動的に「明るい」になります。

「パネル明るさ」「パネルバックライト」「パネル色のこさ」「VFバックライト」は
調節しても記録される画像に変化はありません。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（テープ設定）			
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。	「カメラ」「ビデオ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	●12BIT	12ビット（2つのステレオ音声）の記録、再生ができる。	「カメラ」「ビデオ」*
	16BIT	16ビット（高音質で1つのステレオ音声）の記録、再生ができる。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源／テープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。 • ►再生ボタンまたは画面表示ボタンを押してから8秒間。 • 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。	「カメラ」「ビデオ」
	入	テープ残量を常に表示する。	

LPモードについて

- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のテープをおすすめします。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは

音声ミックスのバランスを調節することができません。

* **他のビデオへダビングするとき**

Digital8 方式で記録されたテープでは音声モードは選べませんが、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープをi.LINKケーブルで出力するときは、音声モードを選ぶことができます。

設定を変える

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（初期設定）			
日時あわせ	—	日付・時刻を合わせる。（13ページ）	「カメラ」
USBストリーム	●切	USBストリーミング機能を使用しない。	「カメラ」「ビデオ」
	入	USBストリーミング機能を使用する。	
メニュー文字サイズ	●ノーマル	通常の大きさでメニュー表示をする。	「カメラ」「ビデオ」
	2×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。	
デモモード	●入	本機の機能を一覧できる。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	

デモモードについて

- カセットが入った状態では操作できません。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。カセットを入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。
  再び「スタンバイ」にするにはメニューで「入」にしたまま電源スイッチをいったん「切（充電）」にし、「カメラ」に戻します。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしていると、“ NIGHTSHOT ”が表示され、デモンストレーションは始まりません。また、メニューでも「デモモード」が選べません。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
ETC（その他）			
データコード	●日付／カメラデータ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻とカメラデータを表示する。	「ビデオ」
	日付データ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻を表示する。	
時差補正	—	時差の設定をする。 選択／押 決定ダイヤルを回して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	「カメラ」
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート／ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	「カメラ」 「ビデオ」
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。	
	切	メロディー、ブザー、シャッター音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「カメラ」 「ビデオ」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	
画面表示	●パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面またはファインダーに出す。	「カメラ」 「ビデオ」
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。被写体に撮影していることを意識させずに撮影できる。	
プログラムエディット	—	デジタルプログラムエディットでダビングするときに、録画機を操作するための設定とタイミング補正をする。プログラムの作成、実行をする。（60ページ）	「ビデオ」
インジケーター	●バックライト切	表示窓のバックライトを消す。	「カメラ」 「ビデオ」
	バックライト入	表示窓のバックライトをつける。	

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」のとき画面表示ボタンを押すと、外部入力ができなくなります。（i.LINKケーブル（DVケーブル）でつないだときを除く）

電源をはずして5分以上たつと

「リモコン」、「バイリンガル」、「音声ミックス」、「フラッシュレベル」はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持します。

被写体に接近して撮るとき

「録画ランプ」が「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合は「録画ランプ」を「切」にすることをおすすめします。

インジケーターについて

- 「バックライト入」を選ぶと撮影時のバッテリー使用時間が約1割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは「インジケーター」は自動的に「バックライト入」になります。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面、ファインダーまたは表示窓に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。106ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない。	•電源スイッチが「カメラ」になっていない。	•「カメラ」にする。	16
	•テープが終わりになっている。	•巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	15、25
	•カセットが誤消去防止状態になっている。	•誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいカセットを入れる。	15
	•テープがヘッドドラムに貼りついている（結露）。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	112
電源が途中で切れる。	•撮影スタンバイが3分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	•電源スイッチを「切（充電）」にしてから、もう一度「カメラ」にする。	16
	•バッテリーが消耗している。	•充電されたバッテリーを取り付ける。	8、9
ファインダーの画像がはっきりしない。	視度調節が正しくない。	視度調節する。	19
手ぶれ補正が働かない。	•メニューの「手ぶれ補正」が「切」になっている。	•「手ぶれ補正」を「入」にする。	91
	•メニューの「ワイドTV」が「入」になっている。	•「ワイドTV」を「切」にする。	91
オートフォーカスが働かない。	•手動ピント合わせになっている。	•フォーカスボタンを押し、自動調節に戻す。	40
	•オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	•手動でピントを合わせて撮影する。	40
ファインダーの画像が消えている。	液晶画面が開いている。	液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	16

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	ー	ー
画面に白点が出ることがある。	スローシャッターやSUPER NIGHTSHOT,COLOR SLOW SHUTTERのときに出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
液晶画面またはファインダーに見慣れぬ画面が現れる。	カセットを入れずに電源スイッチを「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットを入れるとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	98
画像の色が正しくない。	NIGHTSHOTが「入」になっている。	「切」にする。	22
画面が白すぎて画像が見えない。	•明るいところでNIGHTSHOTを「入」にしている。 •逆光補正が働いている。	•「切」にする。 •解除する。	22 21
シャッター音が出ない。	メニューの「おしらせブザー」が「切」になっている。	「おしらせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	91
テレビやコンピュータの画面を撮影すると黒い帯がでる。	ー	メニューの「手ぶれ補正」を「切」にする。	91
別売りのフラッシュが発光しない。	•電源が入っていない。または取り付けられていない。 •フラッシュを2つ以上取り付けている。 •メニューの「フラッシュモード」を「オート」にして明るいところで撮影している。	•電源を入れる。または取り付ける。 •別売りのフラッシュは1つしか取り付けられません。 •「フラッシュモード」を「入」にする。	— — 91

故障かな？と思ったら（つづき）

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ビデオ操作ボタンが働かない。	電源スイッチが「ビデオ」になっていない。	「ビデオ」にする。	25
ビデオ再生ボタンが働かない。	テープが終わりになっている。	テープを巻き戻す。	25
画像に横線が入る。またはぼけたり映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	112
音声が小さい。または聞こえない。	• メニューの「バイリンガル」を「サブ」にして、ステレオで記録されたテープを再生している。 • 音量を最小にしている。 • メニューの「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	• 「バイリンガル」を「切」にする。 • 音量を大きくする。 • 「音声ミックス」を調節する。	91 25 91
日付サーチが誤動作する。	テープの途中に無記録部分がある。	－	55
Digital8**方式で記録された部分の画像が映らない。**	メニューの「再生モード」が「Hi8／8」になっている。	「再生モード」を「オート」にする。	91
Hi8/**スタンダード**8**ミリ方式で記録されたテープが正しく再生されない。**	－	メニューの「再生モード」を「Hi8／8」にする。	91

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「ビデオ」／「カメラ」にしても動作しない。	•バッテリーが消耗している／消耗が近い／取り付けられていない。 •ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	•充電されたバッテリーを取り付ける。 •コンセントに差し込む。	8、9 12
エンドサーチが働かない。	•撮影後にカセットを取り出した。 •カセットを入れてからエンドサーチボタンを押すまでに、１度も撮影していない。	ー ー	ー ー
エンドサーチが誤動作する。	テープの始めや途中に無記録部分がある。	ー	ー
バッテリーの消耗が早い。	•周囲の温度が極端に低い。 •充電が不充分。 •バッテリーそのものの寿命。	ー •満充電する。 •新しいバッテリーに交換する。	ー 9 8
バッテリー残量が正しくない。	•温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 •バッテリーそのものの寿命。 •バッテリーが消耗している。 •残量表示にズレが生じた。	ー •新しいバッテリーに交換する。 •満充電されたバッテリーを取り付ける。 •満充電すると残量が正しく表示される。	ー 8 8、9 9
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	残量表示にズレが生じた。	満充電すると残量が正しく表示される。	9
カセットが取り出せない。	•電源（バッテリーやACパワーアダプター）がはずれている。 •バッテリーが消耗している。	•電源をきちんと接続する。 •充電されたバッテリーを取り付ける。	8、12 8、9
[結露マーク]や⏏が点滅し、カセット取出しスイッチ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	112

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
デジタルプログラムエディットが働かない。	•録画機側の入力切換ができていない。	•接続を確認して録画機側の入力切換スイッチを設定し直す。	60
	•ソニー以外のDV機器とi.LINKケーブル（DVケーブル）を使用して接続している。	•操作を「リモコン」にする。	61
	•無記録部分にプログラム設定しようとしている。	•録画された部分に設定し直す。	67
	•本機と録画機の録画のタイミングが合わない。	•タイミング補正をする。	65
	•リモコンコードが違う。	•正しいリモコンコードを設定する。	61
	•メニューの「再生モード」が「Hi8／8」になっている。	•「再生モード」を「オート」にする。	91
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	•メニューの「リモコン」を「切」にしている。	•「リモコン」を「入」にする。	91
	•リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	•障害物を取り除く。	ー
	•リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	•⊕極と⊖極を正しく入れる。	120
	•乾電池そのものの寿命。	•新しい乾電池に交換する。	120
外部入力しているのに液晶画面やファインダーに画像が映らない。	メニューの「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」になっている。	「画面表示」を「パネル」にする。	91
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける。	•結露している。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	112
	•本機に異常が発生している。	•カセットを入れ直し、再度操作し直す。	ー

その他

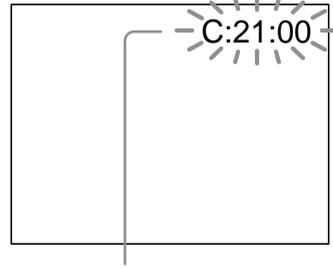
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
本体に取り付けたバッテリーを充電できない。	本機の電源スイッチが「切(充電)」になっていない。	「切(充電)」にする。	9
バッテリー充電中に表示窓が点灯しない。	•充電が完了している。 •バッテリーが正しく取り付けられていない。 •バッテリーが故障している。	ー •正しく取り付ける。 •テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。	ー 8 ー
バッテリー充電中に表示窓のバッテリーマークが点滅する。	•バッテリーが正しく取り付けられていない。 •バッテリーが故障している。	•正しく取り付ける。 •テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。	8 ー
電源が入っているのに操作できない。	—	バッテリーまたはACパワーアダプターのケーブルを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACパワーアダプターのケーブルを取り付け電源を入れる。それでも操作できないときは、タイトルボタン下のRESET(リセット)ボタンを先のとがったもので押す。(この操作をすると日時を含め、すべての設定が解除されます。)	118
USB**接続が認識できない。**	USBドライバのインストールが完了する前にUSBケーブルを接続した。	正しく認識されなかったドライブを削除してから、USBドライバをインストールする。	81

自己診断表示－アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、液晶画面、ファインダーまたは表示窓にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

液晶画面、ファインダーまたは表示窓

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせしていただく状態

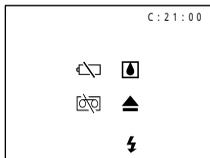
表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	"インフォリチウム"以外のバッテリーを使用している。	"インフォリチウム"バッテリーをご使用ください。	11、109
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	112
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	112
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。 • 電源を一度取りはずし、取り付け直してから再度操作し直す。	ー ー
E:20:□□ E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	ー

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面またはファインダーには、次のような表示が出ます。

詳しい説明は、（　）内のページにあります。

警告表示

C:21:00 自己診断表示（106ページ）

バッテリー残量に関する警告

遅い点滅
- バッテリー残量が少ない
  使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5分から10分でも警告表示が点滅することがあります。

結露の警告*

速い点滅
- テープが結露している
  テープを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置する（112ページ）

テープ関連の警告

遅い点滅
- テープ残量が5分を切った
- テープが入っていない*
- テープが誤消去防止状態になっている*（15ページ）

速い点滅
- テープが終わっている*

テープを取り出す必要がある警告*

遅い点滅
- テープが誤消去防止状態になっている（15ページ）

速い点滅
- 結露している（112ページ）
- テープが終わっている
- 自己診断表示が出ている（106ページ）

フラッシュ（別売り）関連の警告

速い点滅
- 別売りのフラッシュに異常がある

お知らせメッセージ

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。
メッセージにしたがって操作してください。

- バッテリーを取りかえてください（8ページ）
- このバッテリーは古くなりました　取りかえてください（8ページ）
- “インフォリチウム”バッテリーをつかってください（109ページ）
- テープが終わっています*
- カセットを入れてください*
- カセットの誤消去防止ツマミを確認してください*（15ページ）
- メニューで日付・時刻をあわせてください（13ページ）
- ヘッドが汚れています／クリーニングカセットをつかってください（112ページ）
- 結露しています　カセットを取り出してください*（112ページ）
  （カセットが入っていないとき、メッセージは「結露しています」*になります。）
- ダビングプロテクトされています　録画できません*（108ページ）
- 充電中です*

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

Digital8（デジタルエイト）方式と記録・再生

Digital8（デジタルエイト）方式とは

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）テープに、デジタル記録できるように開発されたビデオ方式です。

使えるカセットテープ

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）テープをおすすめします。*
Digital8（デジタルエイト）方式での録画時間は従来のHi8/スタンダード8方式の録画時間の半分になります（120分テープでは、SPモードで60分）。

* スタンダード8ミリ8テープにも録画できますが、本機で再生することをおすすめします。本機以外（他のDCR-TRV240Kを含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。

再生方式

Digital8（デジタルエイト）方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を自動判別して再生します。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中、iDV入力／出力端子からの映像信号はデジタル信号が出力されます。

著作権信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で録画することはできません。
このようなカセットを録画しようとすると液晶画面またはファインダーに「ダビングプロテクトされています　録画できません」の表示が現れます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

音声多重記録テープを再生するとき

Digital8（デジタルエイト）方式で記録されたテープのとき

DV方式で記録された音声多重記録テープを、Digital8（デジタルエイト）方式テープにデジタルダビングし、再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（91ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープのとき

AFM Hi-Fiステレオ方式で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（91ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	モノラル音声	主音声
「サブ」にする	不自然な音声になります	副音声

本機では二重音声は記録できません。

ご注意

Digital8（デジタルエイト）方式で記録されたテープは、Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式のビデオ機器では再生できません。

8は商標です。
Hi8は商標です。
は商標です。

自動判別中の表示
Digital8（デジタルエイト）方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を判別し、自動で再生方式を切り換えます。このとき画面が青画面になり下記の表示が出ます。また「ザー」とノイズ音が出ることがあります。
 → Hi8/8:Digital8（デジタルエイト）方式からHi8/スタンダード8ミリ方式に切り換え中
Hi8/8 → :Hi8/スタンダード8ミリ方式からDigital8（デジタルエイト）方式に切り換え中

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター／チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りのACアダプター／チャージャーを使用すると、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機をご使用になる前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の環境で、表示窓のバックライトが消える（満充電）まで充電することをおすすめします。これ以外では効率のよい充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、次のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  - 高容量バッテリー「NP-FM70/QM70/QM71/FM90/FM91/QM91（別売り）」を使用する。
- 液晶画面の使用や再生／早送り／巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。高容量バッテリー「NP-FM70/QM70/QM71/FM90/FM91/QM91（別売り）」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影または再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安としてお使いください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、カセットを入れずに電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV入力／出力端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Megabits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については59ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を合わせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

4ピン←→4ピン（DVダビング時）

i.LINK、i は商標です。

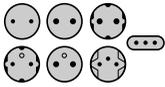
海外で使う

本機は海外でもお使いになれます

付属のACパワーアダプターAC-L10 は、全世界の電源（AC100V〜240V・50/60Hz）でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、**電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。**

電子式変圧器（トラベルコンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像／音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

時差補正機能について

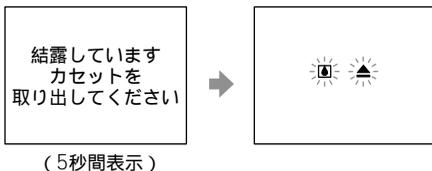
海外でお使いになるときはメニューで「時差補正」を選べば、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは91ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露しています
カセットを
取り出してください

（5秒間表示）

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、開く／カセット取り出しつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

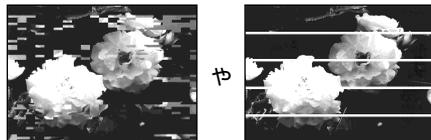
ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットV8-25CLD/V8-25CLDRを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

Digital8（デジタルエイト）方式での再生／録画

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- 録画中に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

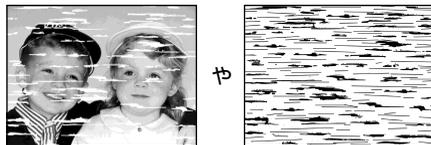
ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

ビデオヘッドがさらに汚れると青一色の画面になります。

Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式での再生

- 再生画面がザラついている。
- 再生画面が不鮮明。
- 再生画像が出ない。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。
- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズのお手入れおよび保管について

- レンズ面に指紋などがついたときや、高温多湿の場所や、海岸など塩の影響を受ける環境で使用したときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しのよいゴミやほこりの少ない場所に保管してください。

カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。またビデオカメラレコーダーを良好な状態で長期にわたってご使用いただくためにも、月に一回程度、ビデオカメラレコーダーの電源を入れて操作することをおすすめします。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し**半年**近く全く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を付属のACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切（充電）」にして24時間以上放置する。

主な仕様

システム

録画/録音	回転2ヘッドヘリカルスキャン
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用カセット	Hi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）ビデオカセットテープ
録画/再生時間	SP：60分 LP：90分 （Hi8120分テープ使用時）
早送り、巻き戻し時間	約5分（Hi8120分テープ使用時）
ファインダー	電子ファインダー（白黒）
撮像素子	3 mm（1/6型）CCD固体撮像素子 総画素数：約46万画素 有効画素数：約29万画素
ズームレンズ	25倍（光学）、300倍（デジタル） f=2.4～60mm （35mmカメラ換算では42～1 050mm） F1.6～2.7 フィルター径37mm
色温度切り換え	自動追尾
最低被写体照度	7 lx（ルクス）（F1.6） 0 lx（ルクス）（NIGHTSHOT時）

入・出力端子

S1映像端子	Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡
映像／音声端子	AVミニジャック 映像：1Vp-p 75Ω不平衡、同期負 音声：入力時327mV、インピーダンス47kΩ以上 出力時327mV、（47kΩ以上負荷時）インピーダンス2.2kΩ以下
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（ø3.5）
USB端子	mini-B
LANC端子	ステレオミニミニジャック（ø2.5）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（ø3.5）
DV入力／出力端子	i.LINK（IEEE1394．4ピン特殊コネクターS100）

液晶画面

画面サイズ	6.2 cm（2.5型）
総ドット数	61 600ドット 横280×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC IN端子8.4V
消費電力 （バッテリー使用時）	3.0W （ファインダー使用時） 3.8W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	–20℃～+60℃
外形寸法 （最大突起部をのぞく）	85 × 101 × 206mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 890g（本体のみ）
撮影時総質量*	約 1 030g *バッテリーNP-FM30、Hi8120分テープ、レンズキャップ含む。
付属品	ACパワーアダプター（1） バッテリーパックNP-FM30（1） レンズキャップ（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3形乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） 取扱説明書（1） 安全のために（1） 保証書兼カスタマーご登録はがき（1） カスタマーご登録CD-ROM（1）

ACパワーアダプターAC-L10

電源	AC100~240V、50/60Hz
定格出力	DC8.4V、1.5 A
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	–20℃～+60℃
外形寸法 （最大突起部をのぞく）	約125 × 39 × 62 mm （幅×高さ×奥行き）
質量	約 280g（本体のみ）

バッテリーパックNP-FM30

最大電圧	DC 8.4V
公称電圧	DC 7.2V
容量	5.0Wh（700mAh）
動作温度	0℃～40℃
最大外形寸法	38.2 × 20.5 × 55.6 mm
質量	約65g
種類	Li-ion

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にお問い合わせください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

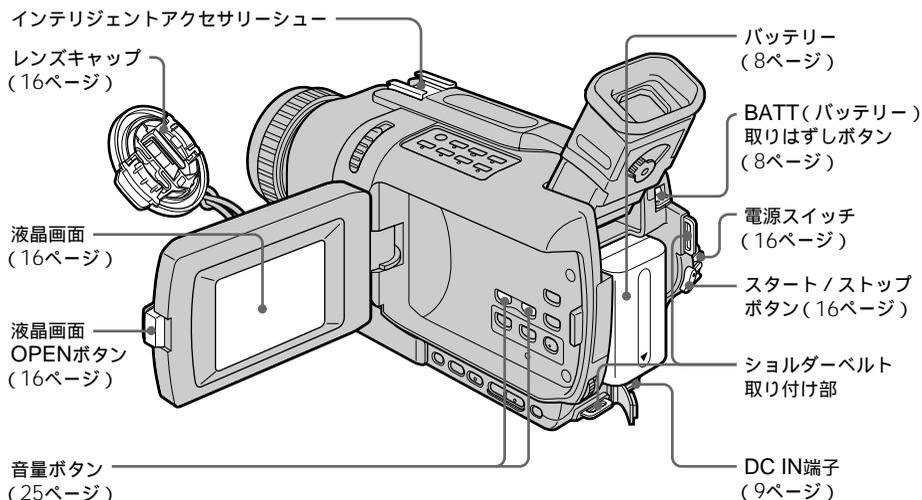
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

各部の名前

使いかたの説明は、(　)内のページにあります。

本体

Intelligent
Accessory Shoe

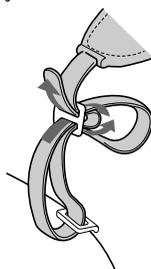
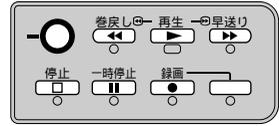
インテリジェントアクセサリーシューについて

- 別売りの専用マイク、ビデオライトやプリンターなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入／切ができます。
  (お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。)
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

ショルダーベルトの取り付け方

ショルダーベルトの取り付け部に図のようにして取り付けてください。

ビデオ操作ボタン
（25、28ページ）

巻戻し 再生 早送り
停止 一時停止 録画

SUPER NS／COLOR SLOW S**ボタン**
（22ページ）

フォーカスリング
（40ページ）

レンズ

内蔵ステレオマイク

録画ランプ
（16ページ）

赤外線発光部
（22ページ）

リモコン受光部

S1**映像** ID-2 **端子**
（29、58ページ）

映像／音声 ID-2 **端子**
（29、58ページ）

NIGHTSHOT**スイッチ**
（22ページ）

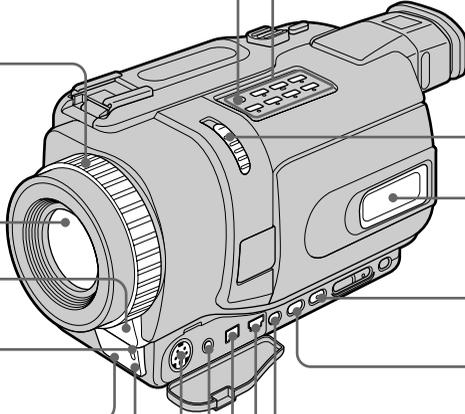
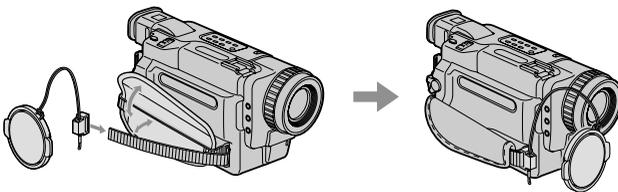
表示窓（121ページ）

フェーダーボタン
（32ページ）

逆光補正ボタン
（21ページ）

フォーカスボタン
（40ページ）

（USB）**端子**
（80ページ）

i.DV**入力／出力端子**
（59ページ）

レンズキャップの取り付け方

i.DV端子は、i.LINKに準拠したDV入出力専用の端子です。

検索する

フォトボタン
（30ページ）
再生ズームボタン
（53ページ）
タイトルボタン
（46ページ）
エンドサーチボタン
（24ページ）

ズームレバー
（18ページ）
スピーカー
画面表示ボタン
（27ページ）
RESET（リセット）
ボタン（105ページ）
メニューボタン
（91ページ）
選択／押決定
ダイヤル
（91ページ）
エディットサーチボタン
（24ページ）
明るさボタン
（39ページ）

ファインダー（19ページ）

マイク（プラグインパワー）端子（ステレオミニジャック）（赤色）

（ヘッドホン）端子（緑色）

グリップベルト

LANC**端子（青色）**

開く／カセット取出しつまみ（15ページ）

アイカップ

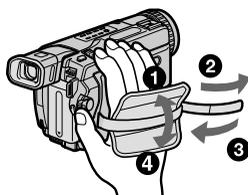
視度調節つまみ（19ページ）

三脚用ネジ穴（底面）
ネジの長さが5.5mm以下の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

カセットぶた（15ページ）

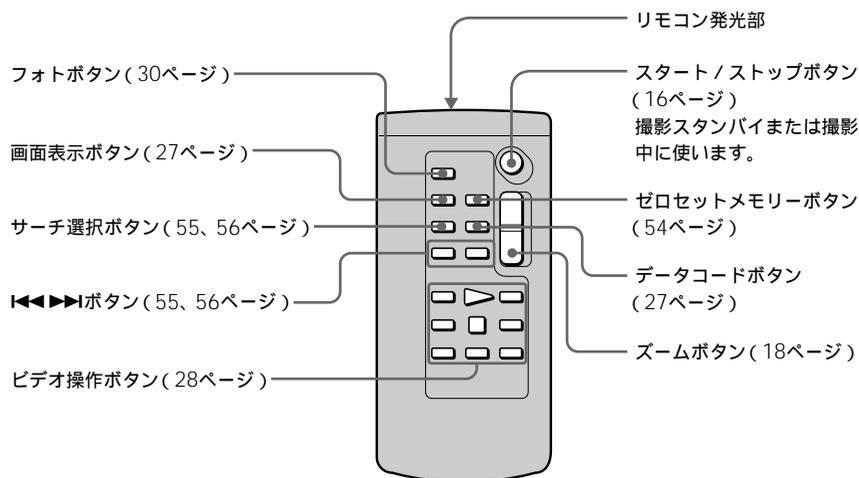
ヘッドホンを使うと
スピーカーから音は出ません。

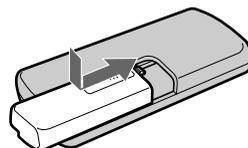
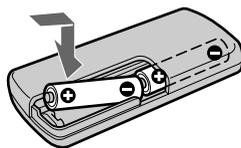
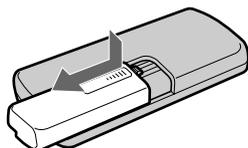
別売りの外部マイクを使う場合
マイク（プラグインパワー）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

グリップベルトの締め方

グリップベルトはしっかりと締めてください。

LANC**マークについて**
は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

次のページへつづく

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ **押しながらずらす。** ❷ **入れる。** ❸ **元に戻す。**

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

液晶画面とファインダーの表示

録画モード
（20ページ）

録画／再生方式
（108ページ）

バッテリー残量
（20、27ページ）

ズーム（18ページ）/
明るさ（39ページ）

フェーダー
（32ページ）/
デジタルエフェクト
（35、52ページ）

ワイドTVモード
（31ページ）

ピクチャーエフェクト
（34、51ページ）

音量調節（25ページ）/
データコード
（27ページ）

プログラムAE
（37ページ）

逆光補正
（21ページ）

手ぶれ補正「切」
（94ページ）

手動ピント合わせ
（40ページ）

フラッシュモード
（93ページ）
別売りのビデオフラッシュ
使用時に表示

撮影スタンバイ・撮影中
（17ページ）/
テープ走行（28ページ）

テープカウンター
（20ページ）/
タイムコード
（20ページ）/
自己診断
（106ページ）/
テープフォト撮影
（30ページ）

テープ残量
（20ページ）

ゼロセットメモリー
（54ページ）

サーチ
（24、55、56ページ）

A/V→DV（90ページ）/
DV**入力**（73ページ）

音声モード
（97ページ）

NIGHTSHOT /
SUPER NIGHTSHOT /
COLOR SLOW
SHUTTER（22ページ）

警告（107ページ）

フラッシュ
（93ページ）
別売りのビデオフラッシュ
使用時に表示

表示窓の表示

録画／再生方式
（108ページ）

満充電
（9ページ）

バッテリー残量
（20、27ページ）

テープカウンター（20ページ）/
タイムコード（20ページ）/**自己診断**（106ページ）/
バッテリー使用可能時間（充電中のみ表示）（9ページ）

索引

カスタマーご登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「デジタルイメージング カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

■カスタマーご登録に関するお問い合わせは
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 03-5977-7255
受付時間： **月～金曜日　午前10時～午後6時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、
および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。
電話： 0564-62-4979
受付時間： **月～金曜日　午前9時～午後5時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。
① **お客様のデジタルイメージングカスタマーID**
（既にカスタマーご登録されたお客様にはカスタマーIDが発行されています）
② **本機の型名**（DCR-TRV240K）**および製造番号**
（保証書などに記載されています）

■ ハンディカムスクエア
ハンディカムの活用法やアクセサリー情報、パソコンへの画像取りこみ方法を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/cam/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。
Printed in Japan